

ME/u/ の脚韻について

平 郡 秀 信

1. 序 論

古音推定という問題は英語音韻史の中心的課題をなすものであり、19世紀以来多くの音韻論学者が苦勞を重ね時代に至っている。各音韻の発達過程及び、特定の時代の音韻の音価もかなりの程度にまでわかっているものの、その細部には依然として確定しがたいものが残っている。英語音韻史の中心的課題はあくまでも標準英語の音変化における各段階の年代確定という問題に集約される。史的音韻論の研究は今日までに次のものがある。Eliss (1869-89), Sweet (1888), Viëtor (1906), Jespersen (1909), Luick (1914-40), Zachrisson (1913, 1927), Bradley (1916), Wyld (1923, 1936), Jordan (1925), Davis (1934), Franz (1939), Kökeritz (1953), Dobson (1957), Kurath (1963), Danielson (1963), Ekwall (1965), Gimson (1970), Prins (1972), Wolfe (1972), Cercignani (1981), 荒木 (1984), 中尾 (1985), Lass (1999)。周知の通り、初期近代英語の発音を推定するのに、1) 個人的な書簡・日記等に見出される伝統的綴字法から逸脱した臨時綴字、2) 正音学者が自分の表記法に基づき当時の発音を記述したもの、3) 脚韻の三つの方法が採られている。1) は Zachrisson, Wyld 等により利用された方法であるが、Dobson は臨時綴字に多くの比重を置いていない。臨時綴字の多くは単なる写し間違いか、臨時綴字でなくしてしまう異形が存在するというのがその理由である。臨

時綴字が見出されたとしても、その提供者が標準英語を話しているかどうか分からないし、それがどういう音に基づいているのかも分からない。臨時綴字が統計的に充分見出される場合に初めて、それを古音推定法の一つに利用するのが望ましいのであって、余り教育を受けてない人々の偶発的な綴字や表音的綴字に頼ることは余りにも危険性が大きいといわねばならない。2) は Dobson により利用された方法である。正音学者の証拠は他の証拠と違って、当時の音韻組織全体の記述が出来るという利点を持っているが、正音・文法学者の証拠は一般に実際より古い発音を標準音として記載している傾向があるというのも事実である。音声学者の言説を証拠として引く場合には、音声学者の記述しているものが標準英語であることの足固めをしておかねばならない。しかし、充分足固めが出来ない場合が起こってくる。更に、特定の音韻についての記述が曖昧な箇所、或いは欠損している場合がある。3) は Wyld, Kökeritz により利用された方法である。脚韻にも a) 完全韻 (true rhyme), b) 伝統的韻 (traditional rhyme: かつては完全韻であったが、音変化の結果、当該時代では完全韻ではなくなったもの)。c) 伝統的綴字韻 (traditional spelling rhyme: 伝統的には許容されているが、どの時代においても同音であったことはないもの), d) 視覚韻 (eye rhyme), e) 完全プラス韻 (true-plus rhyme: 視覚的に同形にするため、何れか一方の綴字を他方と同じ綴字にしたもの) 等があり、額面通りに受け取ると誤った推論を導き出す危険性がある。完全韻と不完全韻を識別する必要がある。初期の詩人の脚韻の中には一見して、不完全韻或いは詩的許容と思われるものが見出されている。現代英語の発音から判断して、その脚韻がいかにも不完全に見えようとも、詳細に検討しない内は、その脚韻を不完全であるとか不注意によるものであると片づけることは出来ない。忘れてならないことは詩人達が用いている脚韻がその時代の話し言葉を忠実に反映している鏡であるということである。その鏡には過去の名残、当時の流行、気取り、更には次の時代には押しも押されぬ標準英語となるべきものに至るまで余すところなく全て映し出されている。我々の目的は可能な限り言語事実＝脚韻を発掘することであり、その事実を正しく記述することである。絶えず変化する英語の発音の歴史

を辿るに当たり、1700年以降文法家の証拠は少なくなるが、それ以降も我々は脚韻という資料を持ち合わせている。脚韻の古音推定に果たす役割は以前より遙かに大きいものとなってくる。只、脚韻の資料を各音韻の年代確定に役立たせるためには、各音韻を音声環境に基づき分類し、英詩で初めて脚韻が使用され、実質的には大母音推移が完了する1800年までの全詩人のタイプ別頻度の変遷を調査する必要がある。しかし、この観点からの脚韻研究は未だ何人によっても行われていない。我々は脚韻のタイプ別頻度の変遷を踏まえれば、Great Vowel Shiftの全貌が明らかになるとの観点から、脚韻の調査を行っている。以下はその中間報告である。

2. 本 論

E Mod E期のME/u/の音価を推定するのに役立つ、臨時綴字、正音学者の証拠を間接的に研究書(Wyld, (1936³, pp. 232-4), Dobson (1968², § 93), Kökeritz (1953, pp. 240-44))から、脚韻の証拠を、直接原資料から収集し、それらを整理すると以下のようなになる。

I] Wyld (1936³, p. 232-4)は15世紀の中頃からME/u/をaと綴った臨時綴字が見出されていることを根拠に、16世紀の末までにME/u/は今日のそれと余り変わらない発音になっていたと考えている。

1a) ME/u/をaと綴った例

gannes (guns) --- Marg. Paston (1440-70), sadanly (suddenly) --- Fortescue (1471-6), camyth (cometh), warsse, wars (worse) --- Cely papers (1473-88), Samerset (Sumerset), Chamley (Chomley) --- Macyn (1550-3) [Wyld, 1936, p. 223], farniture (furniture) --- 16世紀, Saveraigne (Soveraigne) --- 1601 [Zachrisson, 1971, p. 81]

しかし、Dobson (1968², 97 Note7)によると、Wyldの挙げている臨時綴字の殆どは、実際には、aではなくて、oと綴られているものであり、ME/u/をoと綴っている人はME/u/がoに下げられた地方出身者である。又、残りの臨時綴字の中にも、真正なものはなく、warsse (worse)はME werse (wurseでなく)を表すものである。apon (upon)という

綴り字は、先ず間違いなく、強勢の欠如と無強勢の ME/a/ と ME/u/ の [ə] への縮小に基づくものである。つまり、St E の ME/u/ を a と綴ったものでなく、ME/u/ の音価を推定する証拠には利用できないことになる。

2) Wyld は ME/u/ を ɔ と綴った臨時綴字を挙げていないが、Kökeritz (1953, pp. 240-44) は Shakespeare から次の臨時綴字を挙げています。

2a) ME/u/ を ɔ と綴った臨時綴字

bodg'd (budg'd), somnet (summit), bouge (bug), gowne (gum),
moody (mudy), roong (rung).

2b) ME/o/ を u と綴った臨時綴字

currall (coral), bumbard (bombard), gundell (Gondola), Dun
(Don).

2a) 及び、2b) の最初の三つは ME, OF/u/ を持つ二重語が存在し、最後の例は登場人物 Costard の発音であり、Shakespeare がわざと笑いを醸し出すために造った語である。2) に属するものは St E での ME/u/ の音価を推定する証拠にはならない。

3) Wyld は ME/u/ を i と綴った臨時綴字を挙げていないが、次の臨時綴字が存在する。

3a) ME/u/ を i と綴った臨時綴字

biccherz (butchers's) (Dobson, 1968², § 96) 方言での ME/u/ >
平唇化 > ME/i/ に依存するものである。

3b) ME/i/ を u と綴った臨時綴字

woo't, wot (wilt), Woncot (Wincote) (Kökeritz, 1953, p. 215)
[w] のため ME/i/ が円唇化され [u] となったものである。

bird, dirt, first, shirt, stir, thirst にはよく知られた ME/u/ 異形が並存していた。(Dobson, 1968² §§ 82, 84) 音位転換が起きれば普通 -ri- であるが -ru- 異形も生じた。3) に属するものも St E での ME/u/ の音価を推定する証拠にはならない。

II] (Dobson, 1968², § 93) Hodges (1643) 以前の英国の正音学者は ME/u/ を ME/o:/ を短くした音即ち [u] と見なし、Hodges 以降の正音学者は [ʌ] の証拠しか提出していない。ME/u/r と ME/e/r が同一であ

るということは ME/u/r が [ʌr] になった後、直ちに [ər] となったからであり、Coote (1596) が初めて田舎の卑俗な言葉で ME/u/r と ME/ε/r が同じになったことを示している。しかし、St E の証拠は Daines (1640) まで待たねばならない。ME/ui/ が [ui] > [ʌi] に、ME/i:/ = [i:] > [ei] > [əi] になると、両者の差は僅かなものであったので、やがてこの区別はなくなり、ME/ui/ は ME/i:/ の発音 [əi] となった。その後 ME/ui/ は全ての語で ME/ɔi/ に取って代わられたために標準英語から姿を消している。Daines は ME/ui/ は ME/i:/ と同一ではないが似た音と記述している。ME/u/r と ME/ε/r, ME/i/r が同音である、ME/ɔi/ と ME/i:/ が同音であるということは ME/u/ = [u] > [ʌ] に変化した間接証拠となる。

Ⅲ] Kökeritz (1953, p. 240) は Shakespeare の時代に ME/u/ がどの発音であったかを俄には決めがたいとしながら、16 世紀の終わりまでには [ʌ] になっていたと考えている。彼の挙げる脚韻とは次のものである。

ME/u/ : ME/a/

shudder : adder, punish : languish

ME/u/ : ME/o:/

bud : good, mud : flood

ME/u/ : ME/ɔ:/

come : roam

ME/u/ : ME/ɔ/

tongue : belong, young : long

ME/u/ : ME/u:/

budget : Avouch-it, touch : avouch

ME/u/ : ME/e:/

discover : endeavor

ME/u/ は E Mod E 期以降 ME/u/ だけでなく、以下の音韻と押韻している。次の表は自由位置の ME/u/ を含む全脚韻の中で、ME/u/ と ME/u:/, ME/o:/, ME/ɔ:/, ME/ɔ/, ME/a/, ME/e/, ME/i/ の脚韻が占める相対頻度を示したものである。

	12a:12a	12a:1a, f	12a:4a, d	12a:7a, b	12a:8a	12a:9a, b	12a:10a	12a:11a	12a:15a	その他total										
T.Wyatt (1503-42)	60	47.6%	0	0.0%	49	38.8%	2	1.6%	1	0.8%	3	2.4%	0	0.0%	11	8.7%	0	0.0%	0	126
H.Howard (?1517-47)	10	34.5%	0	0.0%	16	55.2%	1	3.4%	0	0.0%	2	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	29
G.Gascoign (c.1535-77)	78	50.0%	4	2.6%	58	37.1%	9	5.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.5%	0	0.0%	0	156
G.Turberville (?1540-1610)	30	40.6%	0	0.0%	38	51.4%	2	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.7%	0	0.0%	4	5.4%	0	74
E.Spenser (1552-99) Sc	9	32.3%	0	0.0%	11	40.7%	3	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.1%	0	0.0%	0	27
Fairy Queen 1 卷	18	26.5%	1	1.5%	32	47.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	20.6%	0	0.0%	0	68
Fairy Queen 2 卷	24	26.6%	5	5.5%	44	48.9%	3	3.3%	0	0.0%	2	2.2%	0	0.0%	12	13.3%	0	0.0%	0	90
Fairy Queen 3 卷	44	33.6%	10	7.6%	61	46.6%	0	0.0%	4	3.1%	6	4.6%	0	0.0%	5	3.8%	0	0.0%	0	131
Fairy Queen 4 卷	27	23.7%	2	1.8%	68	59.7%	6	5.3%	8	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.6%	0	0.0%	0	114
Fairy Queen 5 卷	42	38.9%	3	2.8%	43	39.8%	5	4.6%	1	0.9%	5	4.7%	4	3.7%	2	1.9%	0	0.0%	0	108
Fairy Queen 6 卷	17	21.0%	1	1.2%	45	55.5%	7	8.6%	1	1.2%	1	1.2%	0	0.0%	9	11.1%	0	0.0%	0	81
Minor Poems	40	31.5%	2	1.6%	62	18.8%	8	6.3%	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	12	9.4%	0	0.0%	0	127
W.Raleigh (1552-1618)	20	43.5%	1	2.2%	22	37.8%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	46
P.Sidney (1554-84)	90	39.6%	6	2.6%	127	56.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	1.8%	0	0.0%	0	227
J.Lyly (?1554-1606)	14	27.5%	4	7.9%	32	62.8%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	51
W.Warner (1558-1609)	96	49.5%	13	6.7%	67	34.5%	11	5.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.6%	0	0.0%	0	194
R.Southwell (1561-95)	18	40.9%	26	59.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	44
S.Daniel (?1563-1619)	122	39.6%	20	6.4%	106	34.4%	8	2.5%	0	0.0%	8	2.6%	0	0.0%	43	14.0%	0	0.0%	1	308
M.Drayton (1563-1631)	133	34.3%	12	3.1%	131	34.1%	17	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	92	23.8%	1	0.3%	0	387
C.Marlowe (1564-93)	38	32.5%	9	7.7%	59	50.5%	6	5.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.3%	0	0.0%	0	117
W.Shakespeare 韻文のみ	54	32.7%	6	3.6%	67	40.6%	6	3.6%	1	0.6	0	0.0%	0	0.0%	31	18.8%	0	0.0%	0	165
W.Shakespeare 全 data	87	32.7%	11	4.2%	106	39.9%	13	4.9%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	48	18.0%	0	0.0%	0	268
T.Campion (1567-1620)	20	21.1%	1	1.1%	65	68.5%	7	7.4%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	0	95
J.Davis (1569-1626)	17	29.8%	3	5.3%	27	47.4%	2	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	7	12.3%	0	0.0%	0	57

J.Donne (1572-1631)	94	41.9%	32	14.2%	75	33.5%	16	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	7	3.1%	0	0.0%	0	224
B.jonson (1572-1637)	112	52.8%	13	6.1%	77	36.3%	6	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.7%	0	0.0%	0	212
J.Marston (1576-1634)	18	40.9%	6	13.6%	14	31.8%	5	11.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	44
E.Stirling (1580-1640)	192	35.4%	37	6.8%	262	48.2%	11	2.0%	24	4.4%	0	0.0%	21	3.9%	0	0.0%	7	543
R.Corbet (1582-1635)	20	47.6%	1	2.4%	13	31.0%	4	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.1%	0	0.0%	1	42
P.Fletcher (1582-1650)	20	14.9%	3	2.2%	75	55.9%	6	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	30	22.4%	0	0.0%	0	134
J.Beaumont (1583-1627)	28	38.4%	3	4.1%	37	40.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	6.8%	0	0.0%	0	73
F.Beaumont (1584-1616)	23	28.0%	5	6.1%	33	40.2%	14	17.1%	0	0.0%	0	0.0%	7	8.5%	0	0.0%	0	82
W.Drummond (1585-1649)	49	26.8%	16	8.7%	94	51.4	18	9.8%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.3%	0	0.0%	0	183
J.Ford (1586-1639)	20	32.7%	2	3.3%	28	45.9%	3	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	8	13.1%	0	0.0%	0	61
F.Kynaston (1587-1642)	39	43.3%	10	11.1%	37	41.1%	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	1	90
G.Fletcher (?1588-1623)	33	50.0%	1	1.5%	17	25.7%	6	9.1%	2	3.0%	0	0.0%	7	10.6%	0	0.0%	0	66
W.Browne (?1591-?1641)	117	44.7%	3	1.2%	86	32.9%	27	10.3%	0	0.0%	1	0.4%	28	10.7%	0	0.0%	0	262
R.Herrick (1591-1674)	105	38.6%	27	9.9%	101	37.1%	29	10.7%	0	0.0%	0	0.0%	10	3.7%	0	0.0%	0	272
G.Herbert (1593-1633)	42	35.3%	8	6.8%	61	51.2%	5	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.5%	0	0.0%	0	119
H.King (1592-1669)	41	56.2%	6	8.2%	25	34.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	73
T.Carew (1594-1639)	29	30.2%	4	4.2%	46	47.8%	9	9.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	8.3%	0	96
J.Chalkhill (fl.1600)	21	38.1%	1	1.8%	18	32.7%	8	14.5%	0	0.0%	0	0.0%	6	10.9%	0	0.0%	1	55
S.Marmion (1603-39)	8	25.1%	2	6.3%	18	56.2%	3	9.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	32
E.Benlowes (1603-76)	47	35.0%	4	3.0%	70	52.2%	5	3.7%	2	1.5%	0	0.0%	6	4.5%	0	0.0%	0	134
W.Harbington (1605-54)	28	29.5%	3	3.2%	45	47.4%	15	15.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.2%	0	0.0%	0	95
J.Davenant (1606-68)	22	17.6%	5	4.0%	71	56.8%	17	13.6%	0	0.0%	0	0.0%	10	8.0%	0	0.0%	0	125
E.Waller (1606-87)	40	32.7%	4	3.3%	58	47.5%	12	9.8%	0	0.0%	0	0.0%	6	4.9%	2	1.6%	0	122
W.Bosworth (1607-50?)	20	23.0%	2	2.2%	49	56.3%	12	13.8%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.6%	0	0.0%	0	87
J.Milton (1608-74)	21	44.7%	1	2.1%	14	27.8%	3	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	8	17.0%	0	0.0%	0	47

J.Suckling (1609-41)	19	36.6%	3	4.7%	25	28.1%	3	5.8%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9	0	0.0%	0	52
N.Whiting (?)	45	46.4%	5	5.2%	21	21.7%	13	13.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	13.4%	0	0.0%	0	97
S.Godolphin (1610-42-3)	2	6.5%	2	6.4%	26	83.8%	1	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	31
R.Cartwright (1611-45)	47	51.1%	3	3.3%	25	27.1%	5	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	13.0%	0	0.0%	0	92
S.Butler (1612-80)	71	29.6%	17	7.1%	57	23.7%	45	18.7%	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	47	19.6%	0	0.0%	0	240
R.Crashaw (1613-49)	45	27.1%	14	8.4%	72	43.4%	15	9.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	20	12.0%	0	0.0%	0	166
J.Cleveland (1615-69)	22	48.9%	6	13.3%	10	22.2%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	13.3%	0	0.0%	0	45
J.Denham (1615-69)	30	39.0%	6	7.8%	25	32.5%	12	15.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.2%	0	0.0%	0	77
R.Lovelace (1613-58)	38	41.3%	9	9.7%	30	32.6%	9	9.8%	0	0.0%	1	1.1%	0	0.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	92
A.Cowley (1618-67)	60	21.2%	25	8.8%	155	54.6%	38	13.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	2.1%	0	0.0%	0	284
E.Sherburne (1618-1702)	17	32.8%	1	1.9%	23	44.2%	8	15.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.8%	0	0.0%	0	52
W.Chamberlayne (1619-89)	85	42.1%	3	1.5%	101	50.1%	1	0.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	11	5.4%	0	0.0%	0	202
A.Brome (1620-66)	76	56.3%	4	2.9%	40	39.6%	8	5.8%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	6	4.4%	0	0.0%	0	135
A.Marvell (1621-78)	27	40.3%	7	10.5%	22	32.8%	6	9.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.5%	0	0.0%	0	67
H.Vaughan (1622-95)	131	52.6%	8	3.2%	94	37.8%	8	3.2%	1	0.4%	0	0.0%	3	1.2%	4	1.6%	0	0.0%	0	249
T.Stanley (1625-78)	12	25.5%	4	8.5%	30	63.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.1%	0	0.0%	0	47
P.Hannay (died 1629?)	30	30.3%	3	3.0%	54	54.5%	3	3.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	7	7.1%	1	1.0%	0	99
J.Hall (1627-56)	16	39.0%	1	2.4%	19	46.3%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.3%	1	2.4%	0	41
C.Cotton (1630-87)	40	25.8%	14	9.1%	61	39.4%	33	21.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.5%	0	0.0%	0	155
K.Philips (1631-64)	32	33.3%	6	6.3%	51	53.1%	2	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.2%	0	0.0%	0	96
J.Dryden (1631-1700) 1卷	65	27.4%	9	3.7%	103	43.5%	40	16.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	19	8.2%	1	0.4%	0	237
2卷	84	27.3%	10	3.3%	90	39.3%	81	26.3%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	33	10.7%	8	2.6%	0	307
3卷	58	29.9%	8	4.1%	56	28.8%	39	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	26	13.4%	7	3.6%	0	194
4卷	48	20.0%	11	4.6%	116	48.4%	39	16.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	17	7.1%	9	3.8%	0	240
E.Roscommon (c.1633-85)	7	46.7%	0	0.0%	4	26.6%	3	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0/0%	0	15

T.Sprat (1636-1713)	8	18.6%	3	7.0%	14	32.5%	5	11.6%	0	0.0%	1	2.3%	0	0.0%	8	18.6%	3	7.0%	1	43
T.Flatman (1637-88)	20	16.5%	8	6.7%	49	40.5%	32	26.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	9.9%	0	0.0%	0	121
E.Dorset (1638-1706)	4	33.3%	1	8.3%	6	50.0%	1	8.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	12
P.Ayres (1638-1712)	10	17.9%	1	1.8%	24	42.9%	12	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	14.3%	1	1.8%	0	56
T.Shadwell (?1642-92)	20	33.9%	0	0.0%	20	33.9%	12	20.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	10.2%	0	0.0%	1	59
E.Rochester (1647-80)	25	23.6%	5	4.6%	55	51.9%	16	15.1%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	2	1.9%	0	106
J.Sheffield (1648-1721)	16	19.8%	4	4.9%	52	64.2%	5	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.9%	0	0.0%	0	81
T.Otway (1651-85)	5	12.5%	3	7.5%	18	45.0%	11	27.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.5%	0	0.0%	0	40
P.Carey (fl.1651)	13	46.4%	1	3.6%	11	39.3%	1	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	7.1%	0	0.0%	0	28
W.Hammond (fl.1655)	6	30.0%	2	10.0%	9	45.0%	2	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	0	0.0%	0	20
R.Blackmore (?1655-1729)	22	39.3%	2	3.6%	20	35.7%	5	8.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.4%	4	7.1%	0	56
R.Duke (1658-1711)	6	11.3%	1	1.9%	22	41.5%	14	26.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	17.0%	1	1.9%	0	53
E.Halifax (1661-1715)	4	44.4%	1	11.1%	3	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	9
S.Garth (1661-1719)	16	31.4%	2	4.0%	16	31.4%	6	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	15.7%	3	5.9%	0	51
G.Stepney (1663-1707)	8	22.9%	4	11.5%	14	40.0%	6	17.1%	0	0.0%	1	2.9%	0	0.0%	2	5.7%	0	0.0%	0	35
W.Walsh (1663-1708)	7	18.4%	1	2.6%	23	60.6%	3	7.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	10.5%	0	0.0%	0	38
W.King (1663-1712)	60	42.5%	11	7.8%	45	31.9%	15	10.6%	0	0.0%	4	2.8%	0	0.0%	5	3.5%	1	0.7%	0	141
M.Prior (1664-1721)	60	21.4%	15	5.4%	108	38.6%	50	17.9%	1	0.4%	2	0.7%	0	0.0%	28	10.0%	14	5.0%	2	280
J.Pomfret (1667-1702)	31	29.8%	5	4.8%	61	58.7%	7	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	104
G.Granville (1667-1735)	13	12.0%	3	2.8%	62	57.4%	22	20.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	6.5%	1	0.9%	0	108
J.Swift (1667-1745)	152	59.2%	28	10.9%	50	19.4%	12	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	5.8%	0	0.0%	0	257
W.Congreve (1670-1729)	27	25.5%	9	8.5%	53	50.0%	14	13.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	0	106
T.Yalden (1671-1736)	14	14.0%	7	7.0%	40	40.0%	24	24.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	11	11.0%	2	2.0%	1	100
E.Smith (1672-1710)	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	2
N.Rowe (1673-1718)	14	21.2%	2	3.0%	27	40.9%	13	19.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	15.2	0	0.0%	0	66

W.Harte (?1707-74)	38	40.4%	2	2.1%	41	43.2%	9	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	95
S.Boyse (1708-49)	31	22.6%	25	18.3%	51	37.2%	22	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	5.1%	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	137
L.Lyttleton (1709-73)	6	9.8%	1	1.6%	37	60.7%	14	23.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.3%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	61
P.Whitehead (1709-74)	3	21.4%	0	0.0%	7	50.0%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	14
J.Armstrong (1709-79)	4	40.0%	1	10.0%	2	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10
S.Johnson (1709-84)	9	36.0%	0	0.0%	6	24.0%	3	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	28.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	25
J.Hammond (1710-42)	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1
E.Moore (1712-57)	11	28.2%	2	5.1%	13	33.3%	6	15.4%	0	0.0%	1	2.6%	0	0.0%	6	15.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	39
W.Thompson (1712-67)	23	31.9%	0	0.0%	35	48.6%	8	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	6.9%	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	72
W.Shenstone (1714-63)	24	20.7%	1	0.9%	48	41.4%	27	23.3%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	14	12.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	116
R.Jago (1715-81)	7	28.0%	0	0.0%	6	24.0%	5	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	28.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	25
W.Whitehead (1715-85)	23	20.0%	2	1.7%	48	42.8%	25	21.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	10.4%	3	2.6%	2	0.0%	0	0.0%	115
T.Gray (1716-85)	3	21.4%	0	0.0%	6	42.9%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	21.4%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	14
R.Cambridge (1710-1802)	34	54.0%	1	1.6%	14	22.2%	8	12.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	63
J.Cawthorn (1719-62?)	21	32.9%	4	6.3%	30	46.9%	4	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	64
W.Collins (1721-59)	18	56.3%	0	0.0%	8	25.1%	5	15.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	32
M.Akenside (1721-70)	14	23.7%	0	0.0%	29	49.2%	8	13.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	11.9%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%	59
T.Smollett (1721-71)	11	47.8%	3	13.0%	5	21.7%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	23
W.Wilkie (1721-72)	53	56.4%	2	2.1%	28	29.8%	7	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.2%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	94
F.Fawkes (1721-77)	28	41.2%	2	3.0%	25	36.8%	8	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	68
T.Blacklock (1721-91)	7	21.2%	0	0.0%	19	57.6%	3	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	12.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	33
C.Smart (1722-70)	34	34.7%	2	2.0%	34	34.7%	19	19.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	9.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	98
J.Warton (a722-1800)	6	30.0%	2	10.0%	5	25.0%	3	15.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	20
J.Grainger (1723-66)	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3
J.G.Cooper (1723-69)	13	20.6%	4	6.4%	19	46.0%	11	17.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	63

T.Warton (1728-90)	23	58.9%	1	2.6%	8	20.5%	4	10.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.7%	0	0.0%	0	39
J.Cunningham (1929-73)	33	42.9%	0	0.0%	29	37.7%	12	15.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.9%	0	0.0%	0	77
J.Scott (1730-85)	17	70.8%	0	0.0%	4	16.7%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	24
C.Churchill (1731-64)	106	65.0%	2	1.2%	51	31.3%	3	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	163
W.Cowper (1731-1800)	71	34.2%	10	4.8%	75	36.1%	30	14.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	21	10.1%	0	0.0%	1	208
W.Falconer (1732-69)	20	37.0%	0	0.0%	9	26.0%	18	33.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.7%	0	0.0%	0	54
R.Lloyd (1733-64)	55	54.5%	8	7.9%	26	25.8%	7	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.0%	0	0.0%	1	101
J.Langhorne (1735-79)	18	19.4%	1	1.1%	55	59.2%	14	15.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	5.4%	0	0.0%	0	93
W.J.Mickle (1735-88)	11	23.4%	3	6.4%	10	21.3%	9	19.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	29.8%	0	0.0%	0	47
J.Beattie (1803)	21	33.3%	1	1.6%	15	23.8%	12	19.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	22.2%	0	0.0%	0	63
E.Lovibond (?1735-75)	10	20.4%	3	6.1%	28	57.1%	8	16.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	49
S.W.Jones (1746-94)	42	63.6%	1	1.5%	21	31.8%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	66
J.Logan (1744-88)	9	22.5%	1	2.5%	19	47.5%	11	27.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	40
T.Chatterton (1752-70)	60	56.6%	1	0.9%	33	31.2%	9	8.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.8%	0	0.0%	0	106
G.Crabbe (1754-1832)	116	27.0%	25	5.8%	227	52.9%	50	11.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	2.6%	0	0.0%	0	429
W.Wordsworth (1770-1850)	23	39.0%	3	5.1%	21	35.6%	4	6.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	11.9%	0	0.0%	1	59
G.G.Byron (1788-1824)	126	42.4%	13	4.4%	105	35.4%	27	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	23	7.7%	1	0.3%	1	0.3%	2	297
P.B.Shelley (1772-1822)	16	20.8%	4	5.2%	43	55.9%	10	13.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	77
J.Keats (1795-1821)	127	56.9%	14	6.2%	66	29.6%	6	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	223

12a : 1a

asunder : powder (Spenser-Minor), front : Mount (Spenser1), thus :
 *hous (2t) (Spenser3), lusted : *giusted (Spenser4), lust : *giust
 (Spenser5), bud : aloud (Spenser6), bouget : avouch-it (Shakespeare),
 runne : *downe (Donne), buds : *clouds, buds : *shrouds, much :
 avouch, such : avouch (Stirling), such : *couch (Kynaston), much :
 *crouch, such : *crouch (Herbert), begun : *town (Godolphine), buzzes :
 *houses, run : *down, run't : account, sudden : *loud-one, stunn'd :
 *ground, stunn'd : *sound, Sun : *down, under : *founder (Butler), son :
 Crown (Hannay), Son : *Crown, won : renown (Dryden1), shut :
 grout, Sun : Renown (Dryden2), Son : *Crown, Son : *Town (3t)
 (Dryden3), Front : Fount, stun'd : *ground, run : *Town (Dryden4),
 begun : *down, Sun : *down (Flatman), Gun : *Town (Wilmot), son :
 *crown (Otway), begun : *down (Garth), Sun : renown (2t)
 (Blackmore), much : *couch, run : *down (2t), son : *crown (2t), son :
 *down, son : renown (Prior), run : *, son : *crown (Granville), refund :
 pound, son : *down, son : renown (Yalden), run : *down (Rowe),
 thuds : *clouds (Somerville), through : brow, too : now, two : *bough
 (Wats), Son : *down, Son : Frown (Diaper), son : renown (West),
 shun : *down, son : *crown (Boyse), stunn'd : *ground (Cambridge),
 thunder : *founder (Smollett), under : *founder (T. Warton), front :
 count, front : *dismount (Byron), thus : *house (Keats),

12a : 1a は E Mod E 期以降散見される程度あり、特に北部・西部出身の詩人に見出されているのがその特徴となっている。

I] (Dobson, 1968², § 19) found (er), houswife, scoundrel, thousand には、少なくとも、E Mod E 期には ME/u/ 異形が並存していた正音学者の証拠がある。joust は PE でも joust, just の両形が並存しており、Spenser の lust : giust は joust の ME/u/ 異形 (<OF j (o) ustes) に依存するものである。(Dobson, 1968², § 167 Note1) couch, crouch には ME/u/ 異形 (5 cuche, 4 cruche) が存在していた綴り字上の証拠がある。

又 OED は bough, cloud, crown, down, ground, loud, mount, shroud, sound, town に ME/u/ 異形 (3-4 bugh, 3 clud, 4 crun, 2-4 dun, 1-5 grund, 3-4 lud, 1-5 munt, 3-6 shrud, 3-4 sund, 4-5 tounne, ton) が並存していたことを示している。従って、これらの語と ME/u/ の脚韻は実際には ME/u/ 同士の脚韻であるかも知れない (*を付す)。

II] Shakespeare (WT4.3.20) は「皮袋」の意味で budget を bouget (6-7) と綴り avouch it と押韻させており、Kökeritz はこの脚韻を budget の ME/u:/ 異形に依存する脚韻であると考えている。PE では ME/u:/ は自由位置では二重母音化され [au] となっているが、[w, y] の後、[m, p] の前、[r]+子音の前では、二重母音化が阻止されており、[u:], [ɔ:] となっている。ME/u:/ の発達過程は二重母音化対長母音化の闘争の歴史であり、E Mod E 期では特に卑俗な言葉では、二重母音化が阻止された発音が PE よりも一般的であったこと、及び Wright (1905, § 172) によると、ME/u:/ (down, house, loud, now, town 等) は Sc., Cum., Nhb., でしばしば [u] と発音されていることを考慮すれば、12a: 1a は [u] : [u:] > [u] の完全韻であった可能性が大きい。

12a: 1b

come: tombe, come: toome (Gascoigne), come: tombe (Spenser-Minor), ouercome: roome, ouercome: toombe (Spenser2), become: roome (2t), some: roome (Spenser3), come: roome, some: roome (Spenser5), come: tombe (Raleigh), vp: stoupe (Lyly), come: room, dumb: room (Daniel), become: roome, come: roome, come: tonbe (Drayton), come: rome, some: rome, come: roome (Marlowe), come: tomb, dumb: tomb (5t) (Shakespeare), come: tomb (Campion), become: roome, become: Tombe (2t), becomes: roomes, becomes: tombes, come: roome (6t), come: Tombe (2t), comes: tombes (2t) (Donne), become: Tombe (4t), come: roome (Marston), come: room (P. Fletcher), comes: roomes (J. Beaumont), come: tombe (F. Beaumont), become: Tomb (3t), come: Tomb (5t), o'rcome: Tomb

(Drummond), come : tomb, sum : tomb (Ford), come : room, come : tomb (Kynaston), come : room (G. Fletcher), come : tombe (Browne), become : Tombe, come : rome, come : roome, come : tomb (7t), come : Tombe, comes : Roomes, dumb : roome, comes : Tombs, dumb : Tomb, overcome : roome (Herrick), become : room, become : tomb, come : tomb (2t) (King), become : room, come : room, comes : rooms (Herbert), come : tomb (Chalkhill), come : room (2t), come : roome (Davenant), come : room (2t), come : tomb (Waller), orecome : roome (Habington), come : room (Bosworth), come : Room (Milton), come : room, dumb : room (Suckling), much : touch (Suckling), shun : tomb (Godolphin), come : tomb (2t) (Cartwright), overcome : room, up : stoop (Butler), become : tombe, come : room (2t), come : roome (3t), comes : roomes (Crashaw), come : tomb (2t) (Cleveland), comes : Rooms (Denham), become : Tomb, come : Tombe, dumbs : roome, dumbe : Tombe, hum : Room (Lovelace), become : room (2t), becomes : tombs, come : room (12t), come : tomb, overcome : room, overcome : tomb, some : room, some : tomb, Sun : room (Cowley), comes : rooms (Brome), become : Tomb, come : Room (2t), come : Tombe (Marvell), come : tomb (2t), o'ercome : tomb (Stanley), come : room (Vaughan), come : room (Hall), become : tomb, come : room (3t), come : roome, dumn : tomb (Cotton), become : tomb, come : tomb (3t), come : rooms, gum : tomb (Philips), come : room, dumb : room (Dryden1), come : room (3t), come : Tomb (2t), comes : Tombs, o'recome : Tomb (Dryden2), come : Tomb (2t) (Dryden3), become : Room, come : Room (3t), become : Tomb (2t), come : Tomb (Dryen4), come : room, come : tomb (Sprat), come : room (Dorset), come : room (2t), become : tomb, come : tomb (3t) (Flatman), come : room (Ayres), come : room (Wilmot), become : tomb (Hammond), come : room (Otway), come : room (Garth), come : tomb (Duke), come : tomb (Walsh), come : gloom, come : tomb (2t) (Strpney), come : room (King), come : gloom,

come : tomb, o'ercome : tomb (Prior), come : tomb (2t) (Pomfret), dumb : tomb (Granville), come : room (Swift), come : room (2t), come : tomb, hum : tomb, o'recome : room, some : room, up : stoop (Congreve), become : room, become : tomb, come : room (Yalden), come : room (Rowe), come : tomb (2t), gum : rooms (Addison), come : gloom, come : room (4t), dumb : room (Somerville), come : gloom, come : room (2t), come : tomb (4t), comes : tombs, dumb : room (Watts), come : tomb (Parnell), much : touch (Parnell), come : gloom, come : tomb, comes : rooms (Young), come : gloom, come : room (Gay), comes : glooms (Tickell), come : room (2t), come : tomb (2t) (Pope), come : gloom, come : room, dumb : tomb (Pitt), come : gloom (Dyer), come : gloom (2t) (West), come : room, come : tomb (4t) (Jenyns), come : tomb (Lyttleton), come : gloom (3t), come : room (2t), come : tomb (17t), come : tomb (2t) (W.Whitehead), plumb : tomb (Cawthorn), become : tomb, come : tomb (2t) (J. G. Cooper), come : gloom (2t) (Wilkie), comes : tombs (Fawkes), dome : tomb, comes : tombs (J. Warton), come : room, come : tomb (3t) (Cowper), come : room (Langhorne), come : tomb (3t) (Mickle), overcome : gloom (Beattie), come : gloom, loom : gloom (Lovibond), come : tomb (Logan), cup : droop, come : gloom (6t), comes : glooms, come : gloom (10t), comes : rooms, become : tomb (Crabbe), come : tomb (2t), Some : tomb (Byron), come : room, overcome : room (Wordsworth), come : gloom, come : tomb (Shelley).

12a : 1b は E Mod E 期, L Mod E 期を問わずほぼ同じ割合で見出されている。

I] come : room 等は PE では [ʌ] : [u:] となり完全韻ではないが, E Mod E 期では come : room は [u:] に依存する完全韻となる。(Dobson, 1968², § 18) come には ME/o:/ 異形 = [u:] が並存し, (Dobson, 1968², § 164) room は本来の ME/u:/ が二重母音化しないで, [u:] の音価を保持したからである。gloom (<ME gloume), room (<roum), tomb

(<toumbe), coop (<ME coupe), droop (<ME droupe), stoop (<ME stoupe) は本来 ME/u:/ (=ou) を持っていた語であり (仮に二重母音化が生じていたとすれば, これらの語はその後の音変化では ME/u:/ = [u:] > [ou] > [ʌu] > [au] となっていたはずである), PE 音 [u:] は ME/u:/ が [m, p] の前で二重母音化せず, そのまま残ったことによる。

II] up : stoop, gum : tomb 等は [u] : [u:] > 短母音化 > [u] に依存する脚韻である。12a : 1b は何れにせよ [u:] 又は [u] に依存する完全韻である。

12a : 1c

shunn'd : wound (Stanley), refund : wound (Halifax).

12a : 1c は [u] : 1c = [u:] > [u] の完全韻である。(Dobson, 1968², § 163) wound の PE 音 [u:] は ME/u:/ が [w] _____ の音声環境で二重母音化せず, そのまま残ったことによる。OED は wound に ME/u/ 異形 (1-3 wund) が並存していたことを示している。OE wund は -nd の前で /u:/ と長母音化したが, 標準英語では [w] の影響で [waund] と変化しなかった。しかし, [-au-] は 18 世紀の辞書にはしばしば採用され, 広く方言にも残るほか woundy, wounds (int) にも残っている。Wright (1905, p. 688) によると, wound は今日 Ayr., Sc., Yks., Stf. で [u] と発音されていることが記録されている。

12a : 1f

much : touch, such : touch (Gascoigne), grutch : touch, mutch : touch (Spenser²), much : touch (Spenser⁴), much : touch, such : touch (2t), such : tuch (2t), such : tuch (Sidney), much : touch, such : touch, stufte : enough (Lyly), much : touch (7t), such : touch (3t), much : tuch, such : tuch (2t) (Warner), much : touch (9t), such : touch (9t) (Daniel), Dutch : touch, much : touch (6t), such : touch (2t) (Drayton), much : touch (3t), such : touch (3t) (Marlowe), much : touch (3t), such : touch (Shakespeare), much : touch, such : touch (2t)

(Davies), much : touch (7t), snuffe : enough, stufte : tough, such : touch (7t) (Donne), much : Touch (4t), snuffe : enough, stufte : enough (2t), such : Touch (2t) (Jonson), much : touch (18t), such : touch (15t) (Stirling), such : touch (Corbet), much : touch (2t), such : touch, suche : touch (Marston), much : touch, such : touch (P. Fletcher), much : touch, such : touch (J. Beaumont), much : touch (2t), such : touch, stufte : enough (F. Beaumont), much : Touch, much : touch (3t), such : Touch, such : touch (2t) (Drummond), much : touch (4t), such : touch (2t) (Kynaston), much : touch, such : touch (Browne), much : touch (3t), stufte : enough, such : touch (Herrick), much : touch, stuff : enough (King), much : touch, such : touch (Herbert), much : touch, stufte : enough, such : touch (2t) (Carew), such : touch (2t) (Marmion), bubble : trouble, much : touch, stubble : trouble, such : touch (Benlowe), much : touch (2t) (Davenant), much : touch (Waller), such : touch (2t) (Habington), much : touch (Bosworth), much : touch (2t), such : touch (3t) (Whiting), buble : trouble, cudgel : touch-gole, much : touch (3t), such : touch (Butler), much : Touch, such : Touch (3t) (Crashaw), cousin : dozen, much : touch (2t), such : touch (Cleveland), Cluch : touch, much : touch (3t), such : touch (Denham), much : touch (2t), such : touch (2t) (Lovelace), much : touch (2t), stuff : enough, such : touch (Cowley), much : touch (Sherburne), much : touch, such : touch (Chamberlain), cousen : dozen, hubbles : trobles, stuff : enough (Brome), much : touch (2t), such : touch (Marvell), much : touch, such : touch (Hannay), much : touch (6t), stubble : trouble (Vaughan), bubble : trouble, much : touch (2t), Stuff : rough, such : touch (4t) (Cotton), much : touch, stuff : enough, such : touch (3t) (Dryden1), such : touch (Dryden2), Bubble : Trouble, much : touch (Dryden3), stuff : enough (Sprat), cuff : enough, stuff : enough (2t) (Wilmot), much : touch, such : touch (Sheffield), such : touch (Carey), such : touch (Hammond), stuff : enough (Otway),

stuff : enough (Stepney), cuff : enough, Dutch : touch (2t), such : touch, stubble : trouble, stuff : enough (King), cousin : dozen, cousins : dozens, much : touch, stuff : enough, such : touch (Prior), much : touch (2t), such : touch (Pomfret), Bubble : trouble (2t), bubbled : Doubled, Cousins : Dozens (2t), much : Touch (3t), such : Touch, Snuff : enough, Stubble : double, stubble : trouble, Stuff : enough (15t) (Swift), stuff : enough, such : touch (Congreve), stuff : enough (Yalden), love : enough, stuff : enough (Watts), bubble : trouble (Hughes), such : Touch (Diaper), cousins : dozens (3t), duff : enough, much : touch, stuff : enough (Gay), stuff : enough (Pope), much : touch (Green), puf : enough, stuff : enough (8t), much : touch (2t), such : touch (Byrom), much : touch (Savage), bubble : double, much : touch, stuff : enough (Dodsley), stuff : enough (Jenyns), such : touch (Brooke), much : touch, such : touch (Harte), much : touch (Boyse), stuff : enough (Armstrong), cousin : dozen, stuff : enough (Moore), stuff : enough (Shenstone), cousins : dozens, much : touch (Cawthorn), bubble : trouble (Smollett), stuff : enough (J. G. Cooper), stubble : trouble (Fawkes), Dutch : touch, stuff : enough (Smart), bubble : trouble (Grainger), cousins : dozems, stuff : enough (Mason), stuff : enough, such : touch (Churchill), much : touch (2t), puff : enough, such : touch (3t) (Cowper), cousin : dozen, puff : enough (4t), stuff : enough (2t), such : touch (Lloyd), such : touch (Lovibond), buff : enough (Jones), such : touch (Chatterton), much : touch, stuff : enough, such : touch (Crabbe), much : touch, snuf : enough, stuff : enough (2t), stuff : rough (2t), such : touch (2t) (Byron), much : touch (Wordsworth), bubble : trouble, bubbles : troubles (2t), clutch : touch, much : touch (5t), snuff : enough, such : touch (2t), stuff : enough (Keats).

12a : 1f も E Mod E 期, L Mod E 期を問わずほぼ同じ割合で見出されている。12a : 1f は ME/u/ に依存する完全韻である。Hodges (1643) 以前の全ての正音学者は ME/u/ を ME/o:/ (ME/o:/ は 16 世紀には [u:]

になっていた) を短くした音すなわち [u] と見なし, Hodges が初めて ME/u/ = [ʌ] の証拠を提出し, Hodges 以降の正音学者は ME/u/ = [ʌ] の証拠しか提出していない。(Dobson, 1968², §§ 19, 39) enough, touch, trouble には ME/u/ 異形が並存していた正音学者の証拠があるので, 1650 年以前の 12a:1f は ME/u/ = [u] に, 1650 年以降の 12a:1f は ME/u/ = [ʌ] に依存するものである。enough, touch 等の PE 音 [ʌ] は ME/u:/ = [u:] > [u] > [ʌ] に由来するものである。

12a:4a 用例多数にて著名な詩人の具体例を挙げるに留める。

loue : approue, comes : blooms, loue : remoue, loue : reprove (Spenser 6), son : afternoon, come : doom, love : move, son : noon (Shakespeare), dumb : Boom, come : doom, love : prove, love : reprove (Dryden 1), love : approve, come : doom, love : move, love : prove (Swift), love : approve, dull : fool, skull : fool, dull : school (Pope)

I] (Dobson, 1968², § 18) ME/u/ は開音節ではしばしば長母音化して ME/o:/ となったが, この長母音化を免れて今日 ME/u/ を持つ語の内, above, come, dove, love, some にはこの長母音化に由来する ME/o:/ 異形が並存していた。(Dobson, 1968², § 154) OF の長音 o を含むフランス語借用語は通常 ME/o:/ として借用されたが, 唇音の環境ではしばしば ME/o:/ となった。(ap) prove, move 等の PE 音 [u:] はこの ME/o:/ が発達したものである。

II] dull : fool 等は [u] : [o:] > [u:] > [u] に依存する脚韻である。12a:4a は何れにせよ [u:] 又は [u] に依存する完全韻である。

12a:4d 用例多数にて著名な詩人の具体例を挙げるに留める。

cull : wooll (Gascoigne), budde : good, Buds : Woods (Spenser-Sc), strooke : betooke, strooke : forsooke (Spenser4), bud : good, bud : stood (Shakespeare), budde : good, Buds : Woods (Spenser-Sc), bud : good (Southwell), mudd : stood, mudd : wood (Drayton), pluckt : lookt, strooke : booke, strooke : hooke, strooke : looke (Marlowe),

bloud : good (F. Beaumont), Bud : good (2t) (Drummond), full : wool, full : wooll (3t) (Herrick), bud : good, mud : good, mudde : good (Herbert), bud : good (Carew), mud : good, stud : good (Benlowe), shut : foot (Davenant), luck : mistook, sudden : wooden (Butler), Bud : good, Bud : stood (2t) (Crashaw), Bud : good, Buds : Woods (Marvell), Cud : Wood (Dryden), sullen : Woolen (Swift), bud : good (Congreve).

12a : 4d の内, good, stood, took を含むものは (Dobson, 1968², § 36) good, stood, strooke, took の ME/o:/ の短母音化による ME/u/ 異形に, wood (<ME wude<OE wudu), wool (<OE wull) を含むものは (Dobson, 1968², § 36 Note2) wood, wool の本来の ME/u:/ に依存するものである。Strike は OE では strican (inf.), strakc (pret.), stricon (pret. pl.), stricen (pp.) と変化し, 過去形 strac は規則的に発達して ME strok, E Mod E stroke (北部方言では strake) となったが, 17 世紀初期には strook, struck がこれに変わって一般化したものである。過去分詞形にはいろいろな形が用いられたが, 過去形の影響で 17 世紀以降 struck が標準となった。

12a : 4e 用例多数にて著名な詩人の具体例を挙げるに留める。

loue : aboue (2t), sonne : donne, Loue : gloue (Spenser-Sc), love : above, mud : blood, sun : won, under : wonder (Shakespeare), dombe : one, loue : aboue, loue : doue (2t), Sunne : woon, thunder : wonder (Campion), begun : done, shun : done, run : one, run : won (Dryden1), begun : done, love : above, run : done (Halifax), Mud : Blood, pun : done, Son : done, run : undone (Swift), love : above, mud : flood, run : done, sun : done (Pope).

12a : 4e は ME/u/ : と (Dobson, 1968², § 37) one, done, won, wonder の ME/o:/ 異形に依存するものであろう。none, one は __VCe を満たすので, PE では [ou] となるべきであるが (alone, stone には ME/o:/ が反映されている), これらの語の PE [ʌ] は次のようであったと思われる。OE/a:/ > ME/o:/ > 方言による高母音化 > ME/o:/ となり, 南西・西部方

言では15世紀までに語頭に [w] が添加され, [wo:] > GVS > [wu:] > 短母音化 > 平唇化 > [ʌ]。one の標準英語の元の形 = won は1420年頃, Wiltshire 方言で書かれた Life of St. Editha だけでなく Henry 8 世の手紙, Elizabeth 女王の翻訳, Latimer の説教集, Machyn の日記, Verney memoirs 及び Wentworth Papers の中に見られる。

12a : 5a

strake : awake, strake : sake, strake : shake (Spenser1), strake : take (Spenser5), love : grave (Watts),

struck の北部方言形 ME/a:/ 異形 (strican, strac (pret, sg.), stricen (pret. pl.), stricen (pp) と変化し, 過去形に 4-8 strake, 4-7 stroke, 5-9 strook, 7- struck が並存していた) に依存するものである。love : grave は love の ME/o:/ 異形 = [u:] と grave の意味的異形 tomb = [u:] に依存するものであろう。

12a : 7a

loue : behoue, come : Rome (Wyatt), Loue : hove (Surrey), bloont : woont, hunte : wonte, loue : behoue (5t) (Gascoigne), loue : strove (Turvervile), blont : wont, hont : wont, hunt : wont (Spenser-Sc), come : Rome, loue : behoue (5t), loue : houe (Spenser-Minor), lou'd : behou'd, loues : behoues, ouercome : Rome (Spenser2), come : home, come : rome, loue : behoue (3t) (Spenser4), beloued : behoued, hunt ; woont, louer : ouer, strooke : quooke, strooke : smoke (Spenser5), blunt : wount, discover : ouer, hunt : wount, loue : behoue (3t), strooke : awooke (Spenser6), come : home, loue : Iove (Raleigh), louer : ouer (Lyly), belou'd : behou'd, come : Rome (3t), hunt : wont, loue : behoue (2t), loues : behoues (2t), some : Rome (Warner), become : home, come : home, come : Rome, discover : over, love : strove, lover : over (Daniel), come : Rome, cover : over (2t), discover : over (2t), love : behove, love : drove, love : grove (2t), love : Jove (2t), love : reprove,

love : strove (2t), love : wove, loves : groves (Drayton), cover : over, love : Jove (2t), loves : groves (2t), strooken : tooke (Marlowe), coming : roaming, love : grove (4t), love : Jove (3t), love : strove, loves : groves, lover : over (2t) (Shakespeare), come : alone, loue : groue (2t), Loue : Joue (2t), loue : Hove, Love : stroue (Campion), Love : Jove (Davies), become : home (2t), become : rome, come rome, come : home (5t), love : drove, love : Iove, Love : Jove, Sonne : alone (Donne), come : home (2t), come : Rome (2t), Love : strove, up : ope' (Jonson), come : home, come : Rome (2t), love : Jove, some : home (2t), orecome : home (3t), orecome : Rome, hunt : wont (Stirling), come : home (2t), come : lome (Corbet), loue : Ioue (4t), loue : Joue (Marston), love : Jove (2t), love : strove (2t), grunt : wont, hunt : wont (P. Flrtcher), come : home (2t), hunt : wont, love : grove, love : Jove (9t), some : combe (F. Beaumont), come : Rome, Dove : Grove (2t), Love : Grove (2t), love : Grove (2t), Love : Jove (3t), love : Jove (Drummond), love : grove, love : strove, some : home (Ford), lov'd : behov'd, come : home (Kynaston), come : home (2t), cover : over, dumb : home, Lover : over, recover : over (G. Fletcher), come : home (3t), cover : over (2t), Love : grove (9t), love : Jove (3t), loves : groves (3t), lover : over, love : strove (3t), recover : over (Browne), become : Rome, come : home (10t), comly : homely, cover : over, cover-me : over-me, discover : over (3t), Love : Grove (4t), Love : Jove (3t), love : wove (2t), lover : over, some : combe, up : hope (Herrick), come : home, cover : over, Love : behove, love : grove, Loves : groves (Herbert), come : home, Doves : groves, Front : wont, love : grove (2t), love : Iove, loves : groves, overcome : home (2t) (Carew), come : home (2t), love : grove, love : strove, some : home, son : tone (Chalkhill), love : Jove (2t) (Marmion), Love : grove (3t), Son : alone, sun : alone (Benlowe), become : home, come : fome (2t), come : home (5t), olove : strove (3t), 'recome : Rome (Davenant), come : home (4t), come : Rome, Love : Jove (3t), love : grove (2t), love :

strove (Waller), Love : Jove (2t), love : grove (10t), love : stove (Habington), come : home, front : wont, love : grove (4t), loves : groves (5t), overcome : home (Bosworth), come : home, hunt : wont, loves : groves (Milton), come : home, cover : over, love : grove (Suckling), come : home (5t), love : grove, love : Jove (4t), overcome : home, thumbs : combs (Whiting), loves : groves (Godolphine), loves : groves, some : home (Cartwright), become : Rome, come : home (3t), come : Rome (4t), comely : homely, come-on : moment, come-on't : moment, consults : bolts, discover : Dover, fulsome : wholesome, hunt : wont, Justice : hostess, love : drove, lover : over (11t), o'ercome : home, overcome : home (3t), overcome : Rome, recover : over (3t), scull : whole, some : home (2t), suffer : over, sullen : stolen, thrust : post, up : soap (Butler), come : home (8t), comes : home, Love : Groue, Love : strove, loues : groues, Loves : droves, son : alone, up : ope (Crashaw), become : home, come : home (2t), come : Rome (5t), Love : Jove, love : Grove, loves : Groves, overcome : Rome (Denham), come : Rome, Love : grove (3t) (Lovelace), become : home (2t), become : Rome, come : home (9t), come : Rome, comes : homes, love : drove, love : Jove (4t), love : strove (2t), o'ercome : Rome, overcome : home (2t), overcome : Rome, runs : moans (Cowley), come : Rome, love : grove, love : Jove, loves : groves, up : hope (Sherburne), love : strove (Chamberlain), bosom : oppose'em, come : home, honey : alone, lover : over, recover : over, up : ope (Brome), come : home (2t), Love : grove, loves : groves, overcome : Rome (Marvell), come : home, discover : over, o'ercome : foam (Hannay), come : home, come : Rome, love : grove (2t) (Vaughan), sun : alone (Hall), discover : over, dust : almost, become : foam, become : home, come : home (12t), Love : grove (2t), Love : Jove, Love : strove (2t), Love : wove, Lover : over, Loves : groves (4t), overcome : home, recover : over (Cotton), loves : groves, o'ercome : home (Philips), become : home, come : home (12t), come : Rome (3t), overcome : home,

Love : drove (2t), Loves : groves, Love : strove (4t), love : Grove (6t), love : Jove (3t), some : home, Son : alone, Sunne : alone (Dryden1), become : home (2t), become : Rome (3t), begun : alone, come : home (17t), come : Rome (12t), come : Rone, come : Smoak, Gum : Comb, Gum : home (2t), Love : drove, Love : Hove (4t), Loves : groves (4t), love : grove (7t), love : strove (2t), overcome : home (2t), overcome : Rome (2t), Plum : home, run : Stone, Son : alone (3t), Son : Moan, Son : Stone, Son : Throne, Son : tone, sum : home, Sun : alone (2t), Sun : Zone (Dryden2), become : Rome, begun : Throne (2t), begun : tone, come : home, come : Rome (5t), Love : Grove (6t), Love : Jove (6t), Loves : Groves, Love : wove, o'recome : home (2t), Son : alone (3t), son : Bone, Son : Throne (6t), Sons : Moans, struck : spoke (Dryden3), come : home (6t), come : Rome (2t), Love : drove (3t), Love : grove (5t), Love : Jove (3t), Love : strove (6t), Loves : Grove, o'ercome : home, o'ercome : Rome (2t), overcome : home, overcome : Rome, runs : Stones, shun : alone, Son : Stone, Son : Throne, Sun : alone (2t), up : hope (Dryden4), love : grove (2t), scum : Rome (Roscommon), come : home, come : Rome, o'ercome : Rome, run : groan, us : rose (Sprat), much : approach (Dorset), come : home (17t), come : Rome, dumb : home, Love : grove (2t), Love : strove (3t), love : Jove (2t), recover : over, Son : alone, Son : Throne (Flatman), come : Rome, Love : grove (4t), Love : rove, Love : strove (5t), o'ercome : home (Ayres), become : Rome, come : Rome (2t), Love : strove (3t), o'ercome : Home (2t), o'recome : Rome (2t), some : Home, Son : bemoan (Shadwell), Love : Grove, come : home (6t), come : Rome, come : Throne, overcome : home, Sum : Rome, Sun : Throne, unjust : most (Wilmot), come : Rome, love : grove, overcome : Rome (Sheffield), love : strove (Carey), Sun : alone, loves : groves (Hammond), come : home (3t), love : grove, love : Jove, love : strove (3t), loves : groves (Otway), son : alone, love : frove (2t), loves : groves, come : Rome (garth), come : roam, come : Rome (3t),

love : Jove, love : strove (4t), loves : groves, Sum : Rome, Sun : alone (Duke), come : roam, some : roam, Sun : throne, Sun : zone (2t) (Blackmore), Love : strove, Love : Jove, loves : groves (Walsh), become : Rome, love : Jove (2t), love : strove, scum : Romes, son : throne (Stepney), come : home (3t), come : Rome, love : grove, love : Jove (5t), love : strove, loves : groves, son : alone, son : atone, son : stone (King), butt : coat, come : home (6t), come : Rome, comes : foams, discover : over, love : grove (6t), love : Jove, love : rove (2t), love : strove (7t), lover : clover, lover : over (2t), loves : groves (3t), luck : spoke, recover : over, son : alone, son : groan, son : throne (4t), sun : stone, up : Hope (2t) (Prior), Love : Jove, love : grove (5t), love : strove (Pomfret), colour : odour, come : home, come : Rome (2t), cover : over, discover : over, Love : grove (5t), Love : Jove (6t), lover : over, loves : groves (2t), shun : alone, up : hope (Granville), come : home (4t), come : Rome, Cover : over, discover : over, Love : grove, Lover : over (3t) (Swift), come : home (3t), come : Rome, gust : most, love : grove (2t), love : Jove (3t), love : rove, loves : froves (2t) (Congreve), become : home, come : home (5t), dumb : home, love : drove, love : grove (3t), love : Jove, love : strove, overcome : home, run : throne, shun : alone, Sun : zone, sun : shone (Yalden), come : home, come : Rome (4t), discover : moreover, dumb : Rome, love : Jove (2t), love : strove (2t), lover : moreover (Rowe), come : home (2t), come : Rome, dust : coast, gum : comb, gum : home, hum : home, love : grove, love : Jove (3t), love : strove, run : stone, sun : stone (2t) (Addison), love : grove (5t), love : Jove, love : strove, loves : groves (Philips), discover : over, dust : boast, hums : combs, come : home, love : Jove (3t), love : strove (2t), lover : clover, lover : grove (2t), loves : groves (4t), struck : broke (Somerville), come : home (7t), comes : homes, come : Rome, dumb : Rome, dust : boast (2t), dust : engross'd, dust : host, love : grove (4t), love : strove, loves : groves (3t), Son : throne (3t), up :

hope (Watts), come : Rome (2t), love : grove (13t), love : strove (4t), Loves : groves (3t), Love : Jove (2t), son : throne (2t) (Hughes), come : home (2t), love : grove (5t), love : strove (Parnell), become : Rome, begun : throne, love : strove, Son : throne, sons : bones, Sun : zone (Young), come : Rome (2t), Love : strove (3t), love : grove (10t), love : Jove (2t), love : strove (3t), loves : groves, son : moan (Fenton), come : home (3t), come : Rome, loves : groves (4t), mud : road, shun : Stone, Son : Throne (Diaper), come : roam, Love : grove (19t), Love : rove (2t), love : drove (2t), love : Jove (3t), love : strove (2t), love : wove, lover : over, loves : groves (Gay), come : home, come : Rome (3t), Love : wove, love : grove (4t), love : Jove, love : strove (2t) (Tickell), begun : tone, come : home (3t), love : grove (8t), love : Jove (2t), love : strove, loves : groves (4t), o'ercome : home (2t), run : stone, son : throne, sun : alone (Pope), come : home, love : grove (2t), love : strove (Green), comes : foams, comes : roams, Love : Jove, love : drove, love : grove, loves : groves (Broome), comely : homely, come : Rome (Byrom), Love : grove (2t), loves : groves (Savage), come : home (3t), come : roam, dust : boast, dust : coast, dust : ghost, love : drove, love : grove, love : Jove, love : stove, love : strove, son : moan, Sun : alone (2t), Sun : throne (Pitt), love : drove, love : grove (3t), loves : groves (Thompson), come : home, love : grove (2t) (Dyer), love : drove, love : grove, love : Jove (5t), love : wove, sons : groans (West), love : grove (3t) (Dodsley), come : roam, love : grove (6t) (Jenyns), become : Rome, come : home, come : Rove, love : grove (3t), love : Jove (2t), love : wove, Loves : groves (Hamilton), love : grove (2t), love : Jove, love : strove (Mallet), become : Rome, love : grove (2t), love : Jove (2t), love : strove, come : home, (Harte), come : home, Sun : alone, love : grove (6t), love : Jove, love : strove (5t) (Lyttleton), come : home (2t), Love : grove (9t), love : strove (2t), Loves : groves (4t), son : atone (2t) (Boyse), love : grove, son : throne (P. Whitehead), come : home, Love :

strove, love : Grove (Johnson), come : home, Love : grove (3t), love : strove (Moore), love : grove (4t), loves : groves (2t), loves : droves (W. Thompson), love : behove, love : grove (19t), love : strove (4t), loves : groves (3t) (Shenstone), love : grove (3t), loves : groves, recover : over (Jago), become : home, come : home (3t), come : roam, come : Rome (3t), love : grove (5t), love : Jove (4t), love : wove, lover : over, loves : groves, son : groan, son : stone, son : throne (W. Whitehead), come : home (Gray), front : wont, Love : Grove (4t) (Collins), love : drove, love : wove, loves : groves, love : strove, come : home (2t), come : Rome (Cambridge), love : grove (2t), love : Jove (Cawthorn), come : home, love : grove (4t), son : alone, son : throne, sons : thrones (Akenside), love : grove (2t) (Smollett), become : home (2t), come : roam, come : Rome, Love : grove (3t), Love : strove, love : grove, Loves : droves, Loves : groves (J. G. Cooper), come : home, love : grove, love : Jove, love : strove (2t), son : throne (Wilkie), come : home, come-on't : moment, cup : hope, discover : over, love : grove (2t), love : Jove (2t) (Fawkes), love : grove, loves : groves (J. Warton), Love : grove (3t) (Blacklock), love : grove (10t), come : home, love : Jove (6t), love : strove (2t) (Smart), love : grove (10t), love : Jove, love : strove (Cunningham), love : drove (2t), love : grove, love : strove (T. Warton), come : Rome, love : grove (6t), love : wove, sons : groans (Mason), come : home, Love : grove, loves : groves (Scott), Love : Jove, love : strove (Churchill), come : home (15t), come : Rome, gun : alone, love : grove (5t), plum : home, run : alone, sum : home, suns : groans, up : hope (Cowper), come : roam, Love : grove (6t), love : strove (3t) (Falconer), come : Rome, love : grove (3t), love : Jove (2t), son : throne (Lloyd), Love : wove, love : grove (8t), love : strove, loves : groves (3t) (Langhorne), come : roam (2t), love : grove (5t), loves : groves (Mickle), come : home (2t), love : grove (7t), loves : groves, son : throne (2t) (Beattie), love : grove (4t), love : Jove, love : wove, loves : groves,

sons : thrones (Lovibond), love : grove (Jones), come : home (2t), Love : grove (6t), love : rove, love : wove, loves : groves (Logan), Love : drove, love : grove (4t), love : Jove (3t), loves : groves (Chatterton), come : homes, love : drove, love : grove (2t), love : Jove, love : strove (8t), love : wove, loves : groves (2t), come : home (32t), some : home, up : hope (Crabbe), come : home (4t), cover : over (2t), discover : over (3t), discover-it : over-it, front : wont, Love : cove, love : grove (2t), love : wove, lover : over (5t), loves : groves, recover : over, some : home, son : alone, uncover : over (Byron), become : behoved, Love : grove (2t) (Wordsworth), come : home, love : clove, loves : coves, love : grove, struck : cloak, thumb : home (Keats), come : home, come : roam (2t), comes : roams, love : grove (4t), love : strove (Shelley).

12a : 7a は E Mod E 期以降どの詩人にも豊富に見出されている。

I] (Dobson, 1968², §§ 148-155) 次の ME/ɔ:/ を含む語は少なくとも E Mod E 期には ME/ɔ:/ の ME/o:/ への高母音化に由来する ME/o:/ 異形が並存していた。behave は PE でもその名残である behoove 形が存在している。

- 1) ___ [n] none, one, throne,
 ___ [l] foal, mole, pole, stole,
 ___ [s, h] both, engross, ghost, post, roast.
 ___ [t] boat.
- 2) ___ [r] boar, hoar, sworn, torn (自国語).
 corpse, glory, sort (フランス語借用語).
- 3) ___ [v] behave, drove, grove,
 ___ [k] poke, smoke, stroke.
 ___ [m] home, roam.
- 4) ___ # go, toe. 北部人 Levins と Poole は語尾の ME/ɔ:/ に ME/o:/ を示している。
- 5) [w] ___ two, who, woe.
- 6) フランス語借用語 move, Rome.

7) 特別な語 do, door, lose, poor, too.

(Dobson, 1968², § 18) ME/u/ は開音節ではしばしば長母音化して ME/o:/ となったが、この長母音化を免れて今日 ME/u/ を持つ語の内、above, come, dove, love, some は少なくとも E Mod E 期にはこの長母音化に由来する ME/o:/ 異形が並存していた。従って、これらの語と 7a の脚韻は [u:] に依存する完全韻である。

II] run : moan, son : Bone, sun : alone, up : hope, us : rose 等は [u] : [ɔ:] > [o:] > [u:] > [u] に依存する完全韻である。Kökeritz (1953, p. 231) は、17世紀の多くの正音学者は go, comb, ghost, post, most, roast の ME/ɔ:/ を実際に [u] と発音していること、及び Spenser が ME/u/ と ME/ɔ:/ を押韻させていることを根拠として、12a : 7a を中部・東部方言での ME/ɔ:/ の [u:] 又は短母音化による [u] に依存すものと解釈している。Rome は OE Ro:m を持っていた語であり、その後の音変化では [u:] となるはずであるが、PE 音 [ou] は OF Rome に由来する。come : Rome 等は本来の ME/o:/ に依存するが、home : Rome 等は ME/ɔ:/ 異形に依存する完全韻である。lose (<OE losian) もその後の音変化では ME/ɔ:/ を持ち PE [ou] となるはずであるが、PE 音 [u:] は loose (aj.) 及び ME/o:/ を持つ方言音に由来する。who (<OE hwa:) は ME hwo: となり、[w] の影響で hwo: となった。ME 期に二つの異形 ME/ɔ:/, ME/o:/ が並存し、PE 音 [u:] は後者の発達によるものである。

12a : 7b

become : wombe (Spenser-Minor), come : wombe (Spenser4), come : womb (Davies), become : wombe, come : enwombe, come : wombe (Donne), come : Womb (3t), domb : Womb, come : womb (2t), domb : womb (Drummond), come : wombe (2t) (Browne), come : womb (Waller), come : womb, come : wombe (Cartwright), become : womb (Butler), come : womb (Cleveland), come : Wombe, dumbe : Wombe (2t) (Lovelace), come : womb (10t) (Cowley), come : womb (Sherburne), come : womb (Brome), come : swoome (Marvell),

become : womb, come : womb (2t), some : womb (Cotton), come : womb (2t) (Dryden1), come : Womb (Dryden2), come : womb (Flatman), come : Womb (Wilmot), son : gone (Sheffield), come : womb (2t) (Otway), come : womb (Garth), come : womb, come : wombe, o'ercome : womb (Prior), come : Womb (Swift), come : womb (7t) (Yalden), come : womb (Rowe), come : womb (Addison), come : womb (Hughes), come : womb (Fenton), become : womb, come : womb (Tickell), come : womb (Pope), becomes : wombs (Broome), come : womb (Byrom), come : womb (Pitt), come : womb (Moore), come : womb (W. Thompson), come : womb (Cowper), come : womb (Mickle), come : womb (Shelley).

(Dobson, 1968², § 15) womb は本来 ME/ɔ:/ を持っていた語であり, PE 音 [u:] は ME/ɔ:/ が [w] _____ の環境で二重母音化しないで, [u:] に高母音化したことに由来する。12a : 7b の処理は実質 12a : 7a と同じである。

12a : 7d

sonne : begonne, euerronne : gon (Gascoigne), shoon : begoon (Turbervile), sonne : shonne (Warner), begun : gone, son : gone (Daniel), runne : gone (Drayton), sun : gone (Shakespeare), Sunn : shone (Corbet), run : anon, son : gone (Chalkhill), son : gone (Marmion), son : gone, spunne : gone, Sun : gon (2t), Sun : gone (Davenant), Sunne : gone (Habington), run : gone (Butler), Sunne : gone (2t) (Lovelace), son : gone, sun : shone (Cowley), run : anon (Sherburne), son : gone (Brome), sonne : gone (2t), spun : gone, Sun : gone (Vaughan), begun : gone, run : gon (Dryden1), run : anon, run : gone, Son : gone (2t), Sun : anon (Dryden2), Son : gone (Dryden3), shun : gone (Dryden4), Son : gone, Sun : gone (Flatman), begun : gone, Sun : gone (Wilmot), son : shone, Sun : gone (Duke), son : begone, Sun : gone, Sun : shone (2t) (Prior), run : gone (Congreve), sun : shone

(Yalden), begun : gone (Somerville), sun : gone (Watts), nun : gone, son : gone, Sun : gone (Fenton), son : gone (Gay), run : shone, Sun : shone (Pitt), son : shone (West), son : gone (Jenyns), son : shone, sun : shone (3t) (Brooke), son : shone, sun : shone (Harte), run : gone (3t) (Boyse), son : shone (W. Whitehead), Sun : shone (Cawthorn), son : shone (J. Warton), Sun : shone (Churchill), son : gone, sun : shone (Cowper), run : gone (4t), son : gone, Sun : shone, won : shone (Falconer), sun : shone (Jones), son : gone, sun : gone (Byron).

12a : 7d は PE では [ʌ] : [ɔ] となり不完全韻であるが、E Mod E 期以降散見されている。Dobson (Dobson, 1968², § 97) によると、ME/u/ > ME/ɔ/ は、ME/i/ > ME/ε/ と同様に、南西部・北部方言だけでなく中部諸方言で生じている。一方、(Dobson, 1968², § 33, Note 1, 2) ME/ɔ:/ の短母音化は、ME/ε/ のそれと並んで、かなり一般的であり、E Mod E 期には abroad, both, broad, groat, home, loaf, loath, rode, those, woad, wrote 等にもこの短母音化を持つ異形が存在していた正音学者・脚韻の証拠が存在する。anon, gone, shone の PE 音 [ɔ] は ME/ɔ:/ が正規の [ɔ:] > [o:] > [ou] を経ないで [ɔ:] > [ɔ] と短母音化したことに由来する。従って、12a : 7d は ME/u/ > [ɔ] : ME/ɔ:/ > ME/ɔ/ に依存する完全韻である。ME/ɔ:/ の短母音化は、ME/ε/ のそれと同じぐらい一般的であったにもかかわらず、どういう訳か、PE では ME/ε/ のそれほど多くの痕跡を残していない。

12a : 8a

custome : fantome (Wyatt), punished : banished, shonne : begonne, shonne : sponne (Spenser-Minor), ronne : begonne, shonne : begonne, Suspect : aspect (Spenser³), begonne : sponne, ouerran : man, ronne : sponne, sonne : begunne, stanke : banke, stanke : ranke (Spenser⁴), ouerronne : begonne (Spenser⁵), shonne : begonne (Spenser⁶), shudder : adder (Shakespeare), Sunne : beganne (Campion), shun : ran, Son : ran (G. Fletcher), spun : began, Son : began (Benlowe), begun :

man (Suckling), courage : disparage, courage : marriage, murrain : baron (Butler), sun : began (Chamberlain), among'em : hang'um (Brome), Sun : can (Vaughan), begun : span (Dryden2), son : began (Prior), begun : man (Tickell).

12a : 8a は E Mod E 期以降、散見されるものの、その半数は北部の発音を脚韻に利用している Spenser からのものである。ME/u/ が [u] であり、ME/a/ が [a] である間は両者は韻を踏まない。しかし、1650 年以降 ME/u/ が [ʌ] に、ME/a/ が [æ] になれば両者は類韻を踏む可能性が出てくる。12a : 8a がどの音に依存するか俄には決定できないと思われるので、脚韻の証拠を分析する前に、正音学者・臨時綴字の証拠を検証することにする。

Dobson (Dobson, 1968², § 97) によると、ME/u/ と ME/a/ の同一視は稀で方言で見られる現象であり、正音学者は誰も ME/u/ と ME/a/ の同一視を明確に示しておらず、Bullakar の脚韻 (must : last) と Coles の Eng-Lat. Dic. の中での muster と master の対に見られるに過ぎない。Wyld (Wyld, 1936³, p. 232-4) は 15 世紀の中頃から見出されている ME/u/ を a と綴った臨時綴字が見出されことを根拠に、16 世紀の末までに ME/u/ は今日のそれと余り違わない発音になっていたと考えている。しかし、Dobson (1968², § 97 Note7) によると、Wyld の挙げている臨時綴字の殆どは、実際には、a ではなくて、o と綴られているものであり、ME/u/ を o と綴っている人は ME/u/ が o に下げられた地方出身者である。つまり、正音学者・臨時綴字の証拠は St E での ME/u/ の音価を推定する証拠には利用できないことになる。Shakespeare に shudder : adder が見出されるが、Kökeritz はこれを ME/u/ = [ʌ] : ME/a/ = [æ] の類韻と見なし、ME/u/ が [ʌ] に中舌化し、ME/a/ が [æ] に高母音化した証拠とみなしている。しかし、この脚韻も shudder に shadyr 異形が並存しており、確証にはならない。又、shudder には shodar 異形が並存していたので、11a : 8a と解することも可能である。

ME/u/ は ME/a/ と押韻しているものの、ME/u/ の音価が俄には決定できない場合、それと対をなす ME/a/ の音価が判れば、自動的に

ME/u/ の音価が決まることになる。

I] 12a : 8a が見出される詩人では同時に 8a : 10a も見出されている。ME/a/ が [a] であり、ME/ε/ が [ε] である間は、両者は韻を踏まない。しかし、ME/a/ が [æ] になれば、両者は類韻を踏む可能性が出てくる。この両者の類韻は ME/a/ が [æ] に変化した証拠となる。事実、Wyld (1936³, p. 199), Kökeritz (1953, p. 164) は 8a : 10a を [æ] : [ε] の類韻と見なしてきたが、筆者は ME 期には ME/a/ を持つ語にはいろんな起源に遡る ME/e/ 異形が併存していたため、8a : 10a は [æ] : [ε] の類韻ではなく ME/a/ の方言音・異形 [ε] 又は [e] に依存する完全韻であるという見解を採っている。Dobson (1968², § 96) は ME/u/ は Scotland, Somerset, Devonshire 方言では [i] 又は [e] となっており、Kökeritz (1953, p. 211) は just にはよく知られた方言形 [e], [i] が存在しているので、12a : 8a は [e] に依存する完全韻ということになる。

II] 12a : 8a が見出されている詩人では同時に 8a : 11a が見出されている。但し、正音学者の ME/a/ と ME/ɔ/ の同一視の証拠はせいぜい卑語を記録している同音語表に見られるぐらいで、それ以外は卑語又は方言に依存している Sussex 生まれの Bullokar の脚韻、北部人 Poole の脚韻表 (barb : orb, arch : torch) ぐらいである。(Dobson, 1968², Vol. p. 109) Bullokar では ME/u/ が ME/ɔ/ に低母音化されたことを示す must : lost 及び ME/u/ が ME/ɔ/ に低母音化され、更に ME/a/ に平唇化されたことを示す must : last が見出されている。ME/u/ が ME/ɔ/ に低母音化された方言では両者の衝突を避けるために、ME/ɔ/ が平唇化して ME/a/ となった。ME/a/ は ME/ɔ/ との衝突を避けるために、前母音化して [e] なり結果的に ME/u/ の平唇化 = [e] が生じることとなった。事実 Bullokar には just : rest が見出され、ME/u/ = ME/ε/ になり、この現象が Norfolk, suffolk, Essex を含む多くの方言で見られた Vulgarism であることを示している。従って筆者の見解では、12a : 8a は卑語・北部・南・西部方言での [e] に依存する完全韻ということになる。

12a : 8e ouerran : wan (Spenser⁴), asunder : wander, hunt : want

(Wilmot).

ouerran : wan は run の ME/a/ 異形 (6-9 nan) に依存するものであり, asunder : wander, hunt : want は ME/u/ > ME/o/ > ME/a/ (= [e]) に依存する完全韻ということになる。

12a : 9a

kitt : wytt, shytt : fytt, shytt : submytt (Wyatt), sich : rich (Spenser-Sc), trust : thrust, vnjust : thrust (Spenser2), much : rich, sich : bewitch, such : rich (Spenser3), iust : lust, thrust : lust (Spenser5), discover : quiver (Spenser6), much : rich, much : which (3t), such : which, thus : amiss, thus : his (2t) (Daniel), rinne : begin, rinne : beginne (3t), rinne : in (3t), rinne : sinne, rinne : winne (2t), run : begin, run : in, runne : begin (2t), runne : in, runne : sinne (2t), runne : winne, runnes : beginnes, runnes : sinnes, running : beginning (Stirling), Sun : him (Lovelace), such : rich (Hannay), sung : wing (Hughes), blushes : wishes (Hamilton),

12b : 9a

full : wull (Spenser-Minor), bull : will (Cartwright), full : will (Crashaw),

12a : 10a

discover : euer, louer : euer, ouerren : men, ouerren : pen (Spenser5), honey : any, Crush : flesh, dust : exprest (Vaughan), gulf : self (Byron).

12a : 9a (such : rich) は PE では [ʌ] : [i] となり不完全韻である。この脚韻は E Mod E 期には散見されているものの, L Mod E 期になるにつけ見出されなくなる。Wyatt, Spenser の cut, shut, such という臨時綴字が示しているように, ME/u/ を持つ語には ME/i/ 異形が並存していた。

Dobson (1968², § 96) によると, Wright (1905, § 100) は ME/u/ は Scotland, Somerset, Devonshire で [i] 又は [e] (=南西部方言) と発音

されている示しているので, 12a:9a, 12a:10a はこれらの方言での [i] 又は [e] に依存する完全韻である。Bullokar は just に ME/ε/ が並存していたことを示しており, ME/u/= [ε] は Norfolk, Suffolk, Essex を含む多くの方言で観察された vulgarism であると報告している。Gil は Mopsa は butcher's を biccherz と発音し, それを東部方言での Kiver (cover) と比較している。Somerset 生まれの Daniel, Scotland 生まれの Stirling に多く見出されている 12a:9a はまさにこの [i] に依存するものである。Dobson (1968², § 83) は cover (<cuevre) には kever, kiver 異形が並存していたことを示しており, discover: euer (Spenser5) はこの [e] に依存するものである。Gil は cover が東部方言では kiver と発音されることを記録しており, Hertford 生まれの Cooper は自分は kiver より cover の綴り字を好むと言っている。Wright (1905, § 219) は kiver は現代東部方言で生じているが何も東部方言に限ったことでないことを, just はあまねく [i], judge は South Oxfordshire で [e] と発音されていること報告している。bull: will は (1968², § 85) will の ME/u/ 異形に依存するものである。ME/i/ の円唇化は主として Scotland, 北部方言で, ME/ε/ の円唇化は主として南西部方言で生じているものの, 他の方言でも散在的に生じている。[w] の後の ME/i/ はしばしば円唇化を起こし, bishop, will, wit, wither には少なくともこの円唇化に由来する M/u/ 異形が並存していた。Wright (Index) は will は Hertfordshire, Norfolk, Essex で [u], with は Sussex で [ʌ], weather は Norfolk で [ʌ], wether は Norfolk, Suffolk で [ʌ] と発音されていることが報告されている。

12a:9b

dust: furst, must: first (Surrey), trust: thrust, vnjust: thrust (Spenser2), lust: thrust, must: thrust, trust: thrust (Spenser3), must: first, trust: first, vnjust: first (Spenser5), thrust: first (Browne), trust: first (Sprat), dust: first (Stepney), just: first, trust: first (2t), unjust: first (King), trust: first (2t) (Prior), just:

first (Yalden), drust : thirst, dust : first (2t), just : first, trust : first (Watts), lust : first (Gay), must : first (Moore), must : first (2t) (Shenstone).

12a : 9b は E Mod E 期以降散見される程度であり, first, thirst の ME/u/ 異形 (3-5 *furst*, 4-6 *thrust*) に依存するものである。

12a : 11a

*among : long (3t), *among : song, *among : strong, *among : wrong, *emonge : wronge (2t), suffered : offerde, *tonge : longe, *tonge : wronge (Wyatt), *among : long, sprong : long, sprong : wrong, *tongue : longe, *tongue : song, *tong : soong, *tong : wrong (Gascoigne), *among : long, *among : wrong, sproong : soong, roong : soong (Turberville), *among : long, *among : longe, *among : song (Spenser-Sc), *among : long (3t), *among : song, *among : strong, flong : song, soong : long, sprong : song, *tong : along, *tong : long (2t), *tongs : wrongs (Spenser-Minor), hong : along, hong : strong (2t), *tong : along, *tong : long (3t), *tong : song, *tong : strong (3t), *tong : wrong (2t) (Spenser1), *among : long, dong : long, dong : wrong, flong : along, flong : strong, flong : wrong, hong : long (2t), hong : strong (3t), *tong : strong, *tong : arong (Spenser2), hong : strong, rong : throng, sprong : along, sprong : song, sprong : throng (Spenser3), hong : long, hong : strong, hong : wrong (Spenser4), hong : long, hong : strong (Spenser5), *among : along, *among : long, *among : strong (2t), *among : wrong, discover : houer, *tong : along, *tong : strong, *tong : wrong (Spenser6), *among : long, *among : song (2t), *toong : wroong (Sidney), subject : object (Davies), *among : long (3t), *among : throng, *among : wrong (2t), *tounge : wrong (Warner), *among : long (3t), *among : song, *among : strong (2t), *among : wrong (5t), become : from, begun : on, begun : thereon, begun : thereupon, begun : upon, furrows : sorrows, run : on (2t), run : upon, son :

on (2t), son : thereupon, son : upon (2t), subject : object, Sun : thereon
 (2t), *tongue : belong, *tongue : song, *tongue : strong, *tongue :
 wrong (2t), up : stop (2t), up : top (3t), young : long (2t), young :
 strong, young : wrong (2t) (Daniel), *among : along, *among : belong
 (2t), *among : long (6t), *among : song (6t), *among : strong (5t),
 *among : wrong (4t), *among-it : along-it, become-him : from-him,
 clung : along, cover : hover (2t), discovers : hovers, flung : along,
 flung : long, hong : long, hung : thong, hung : along, hung : belong,
 hung : long, hung : wrong, rung : belong, runne : on, sonne : John,
 sprong : along, sprung : belong, sprung : long (2t), sprung : strong,
 sprung : wrong (3t), strung : belong, sprung : strong, stung : long,
 stung : strong (2t), stung : wrong, stong : song, sung : along, sung :
 belong, sung : long (3t), sung : wrong, *tongue : along, *tongue : long
 (4t), *tongue : song, *tongue : strong, *tongue : throng (2t), *tongue :
 wrong (4t), *tongues : wrongs (2t), wrung : strong, yong : along,
 yong : belong, yong : long (2t), yong : song, yong : strong, yong :
 wrong, young : long, young : strong (2t), young : wrong (Drayton),
 *among : long, cover : hover, discovers : hovers, hoong : wroong,
 yoong : soong (Marlowe), *among : belong, *among : strong, courage :
 forage, cover'd : hover'd, lover'd : hover'd, shun-you : on-you, *tongue :
 belong, *tongue : long (5t), *tongue : song (3t), *tongue : strong,
 *tongues : belongs, *tongues : songs, *tongue : throng, *tongue : wrong
 (19t), *tongues : throngs, *tongues : wrongs, young : belong, young :
 long (4t), young : strong (2t), young : wrong (Shakespeare), *toong :
 wrong (Campion), *among : song (2t), *among : wrong, *tongue :
 long, *tongue : song, *tongue : strong, young : strong (Davies),
 recover : hover, Sonne : upon, *tongue : song (2t), *tongues : belongs
 (2t), *tongues : wrongs, (Donne), among : song (2t), *tongue : along
 (2t), *Tongue : song (3t), *Tongues : wrongs, younger : stronger, up :
 top (Jonson), *among : belong, *among : long, *among : song, *among :

strong (2t), *among : wrong (2t), asunder : ponder (2t), judge : lodge
 (4t), judge'd : lodg'd, Iudge : lodge, thunder : ponder, under : ponder,
 *tongue : song, *tongue : srong, *tongue : wrong, *tongues : wrongs
 (Stirling), sonne : on, Sunne : on, *tongue : wrong (Corbet), *among :
 along, *among : song (2t), *among : throng, *among : longs,
 *among : songs (2t), colours : dolours, covering : hovering, flung :
 song (2t), flung : throng, son : on, *tongue : long (2t), *tongue : song,
 *tongue : strong, *tongue : throng, *tongue : wrong, (4t), *tongues :
 songs (4t), *tongues : wrongs young : long (2t), young : song (P.
 Fletcher), *tongue : long, *tongue : wrong (2t), young : long, young :
 strong (J. Beaumont), become-her : from-her, *tongue : along, *tongue
 : long (2t), *tongue : throng, *tongue : wrong, yong : song (F
 Beaumont), *among : along, *among : Throng, *among : Wrong,
 *among : wrong, *tongues : wrongs, young : long (Drummond), cour-
 age : forage (2t), subject : object (2t), *tongue : song, *tongues : songs,
 *tongues : wrongs(2t)(Ford), *tongues : wrongs (Kynaston), *among :
 song, *among : throng, covereth : bovereth, *tongue : song (2t),
 *tongue : throng (G. Fletcher), *among : song (6t), *among : wrong,
 *among-us : wrong-us, *among-you : wrong-you, hunger : longer (2t),
 Sune : upon, sung : long, tong : wrong, *tongue : along, tongue : long,
 *tongue : song (3t), *tongue : wrong, *tongues : belongs, *tongues :
 songs, yong : long, yong : song (3t), yong : wrong, up : toppe
 (Browne), *among : long, *among : Song, shun : one, rung : Song,
 *tongue : along, *tongue : long, *tongue : throng, *Tongue : Longe,
 *Tongue : Song, young : Song (Herrick), *front : on't (King), *tongue :
 long (2t), *tongue : strong (Herbert), *tong : throng, *tongue : belong,
 *tongue : throng, *tongue : wrong (4t), woman : common (Carew), be-
 come-her : from-her, discover'd : hoveer'd, son : on, *tongue : along,
 *untongued : throng'd, up : top (Chalkhill), *among : strong (Mar-
 mion), discover : hover, Lover : hover, *tongue : long, *tongue : song,

*tongue : strong, *tongue : throng (Benlowe), *tongue : belong,
 *tongue : long, *tongue : song, *tongue : strong, tun : on, young : long,
 young : strong (2t), *tounge : wrong (2t) (Davenant), begun : on,
 hung : wrong, *tongue : long, *tongues : wrongs, young : song, young :
 strong (Waller), *tongue : song, *tongue : strong, *tongue : throng,
 *tongue : wrong (Habington), love-her : hover, Sun : on, *tongue :
 wrong (2t) (Bosworth), among : long, among : Song, hung : throng,
 son : on, tongue : long, tongue : Song, *tongue : throng, young : wrong
 (Milton), woman : common (Suckling), discover : hover (2t), discov-
 ered : hovered, lover : hover, son : on, *tongue : long (2t), *tongue :
 song (3t), *tongue : wrong, *tongues : longs, *tongues : throngs (Whit-
 ing), *among : long, *among : throng (2t), begun : long, come : from,
 young : long (2t), *tounge : wrong (4t), young : wrong (Cartwright),
 *among : throng (2t), *among : wrong, begun : on (7t), Borough : mor-
 row, bum : from, colour : collier, come : from (2t), courage : forage,
 cushion : devotion, dump : pomp, dung : wrong, gun : upon, *front :
 upon't, hung : long, hung : song (2t), judg'd : lodg'd, monger : longer
 (2t), run : on (2t), run : upon (2t), study : body, stuff : cough, stuff :
 of, Sun : upon (2t), sung : wrong, swung : long, *tongue : strong,
 *tongue : wrong (2t), tub : sob, up : stop, up : top (2t), wrung : along,
 young : long (Butler), *Among : throng (2t), become-thee : from-thee,
 become-thee : upon-thee, covers : hovers (2t), cup : drop, hung : along,
 hung : strong, recouers : houers, Sun : on (3t), sun : along, sun : upon,
 sun : vpon, Sunne : on, *tongue : song, up : drop, up : shop (Crashaw),
 lovers : hovers, summons : Commons, *tongue : song, *tongue : wrong
 (3t) (Cleveland), *tongue : wrong (2t), *tongues : throngs, young : be-
 long (Denham), *front : on't, recover'd : hover'd, up : Crop, up : top,
 young : Throng (Lovelace), o'ercome : upon, son : on (2t), *toug :
 throng, young : strong, young : wrong (Cowley), cut : not, sprung :
 long, *tongue : wrong (Sherburne), *among : along, *among : long,

*among:strong (2t), *among:throng (5t), *among:wrong, discover: hover (Chamberlain), lover: hover, love-them: of-them, run: upon, *tongue:strong, *tongue:wrong (2t) (Brome), *among: Song, Son: on, *tongue:throng, unsung:long, young:long (Marvell), *among:long (Stanley), flung:along, hung:along, hung:wrong, lovers: hovers, *tongue:long, *tongue:wrong, young:throng (Hannay), *among: Song, spun: on, Sun: on, young:long (Vaughan), *among:long, come:from, *tongue:song (Hall), dust: lost, hung:long, hunger:longer, Love:of, *tongues:belongs, *tongues:wongs, young:long (Cotton), *tongue:belong, *tongue:wrong, young:along, young:long (2t) (Philips), come: on, Song: strung:song, Sun: on, sung:along, *Tongue:belong, *Tongue:song, *tongue:long (3t), *tongue:wrong (2t), *tongues:wongs, young:long (3t), young:prolong, Young:along (Dryden1), *among-ye: wrong-ye, *among-ye: wrong-ye, hung:long, hung: Song, run: on (2t), Son: on, Sung:along (2t), *Tongue:along (2t), *Tongue:belong (2t), *Tongue: Song, *Tongue: Strong (2t), *Tongue: throng, *Tongue: wrong, *tongue:long (4t), *Tongues:belongs, *Tongues: Wongs, Young:along (2t), young:long (3t), young: Song, young: Strong (2t) (Dryden2), hung:along (5t), hung:belong, hung:long, run: on, shun: on, Son: on, sprung:along, strung:along, *Tongue: along (3t), *Tongue:belong, *Tongue:wrong, *Tongs: Songs, *tongu'd: belong'd, Young:along (2t), young:long, young: Song, young:strong (2t), young:Throng (Dryden3), begun: on (2t), flung: Strong, hung:prong, run: on (2t), Sun: on, *Tongue:belong, *Tongue: Song, *Tongue: Strong, *Tongue: Wrong (3t), up: Crop, young:long, young: Strong (2t) (Dryden4), *tongue:song (Roscommon), hung:along, hung:song, *tongues:songs, up:shop, up: stop, *tongue:throng, young:strong, young:throng (Sprat), shun: on (Halifax), *among:along, begun: on, sung:strong, supper:

proper, *tongue : strong (3t), young : song, young : strong (2t), Sun : upon (2t) (Flatman), flung : along, hung : song, sprung : belong, sprung : song, *tongue : song, young : long (2t), young : song (Ayres), begun : on, Stuff : off, Son : on, sung : long, up : drop, young : Song (Shadwell), Stuff : off (Wilmot), *tongue : wrong (2t), *tongues : wrongs, up : top (Sheffield), lover : hover (2t (Carey), Sun : upon (Hammond), hung : throng, *tongue : aong, young : wrong (Otway), begun : on (2t), run : on (2t), *tongue : long (2t), *tongue : strong, *tongue : throng (Garth), hung : song, *tongue : long (2t), *tongue : song (2t), *tongue : strong, *tongue : throng, up : top, young : song (Duke), *tongue : wrong, young : strong (2t) (Blackmore), distrust : crost, *tongue : wrong, young : long, young : strong (Walsh), discover : hover, sung : wrong, *tongue : along, *tongue : long, up : top (King), begun : on, begun : put-on, bud : rod, money : upon-ye, run : on (2t), son : on (2t), sprung : song (2t), strung : song (2t), study : body, struck : o'clock, *tongue : song (2t), *tongue : wrong (2t), unstung : song, up : top (2t), young : song (6t) (Prior), cup : drop, Sun : on (2t), *tongue : song, *tongue : wrong, young : strong (2t) (Granville), *among : throng, begun : on, Dung : throng, *Front : upon't (2t), Hunger : longer, govern : Sov'reign (2t), Justice : hostess (2t), Summons : Commons, *Tongiue : along, *Tongue : Song (2t), *Tongue : wrong (Swift), gust : cost, sung : wrong, *tongue : belong (Congreve), run : on, shun : on, Sun : on, *tongue : belong, *tongue : wrong (3t), up : top, young : belong, young : long, young : wrong (Yalden), hung : long, sprung : long, run : on, sun : on, *tongue : along, *tongue : song (2t), *tongue : wrong (2t), young : along (Rowe), *tongue : along, *tongue : song (6t), *tongue : throng, *tongue : wrong, young : along, son : on (2t), up : drop (Addison), *among : trong, *among : wrong, tongue : song (2t), *tongues : songs, *tongue : wrong, young : long, young : strong (Philips), *tongue : strong, unstrung : song (Somerville), bud :

Gos, come-me : from-me, son : on, sung : along, *tongue : along (2t), *tongue : long (3t), *tongue : song (18t), *tongues : songs (5t), *tongue : strong (2t), *tongue : throng (3t), *tongue : wrong, *tongues : wrongs, up : top, young : long, young : song, young : strong (Watts), *tongue : song, young : along, young : song (Hughes), fund : beyond, *tongue : song, *tongue : throng, *tongue : wrong (5t), young : song, young : strong (Young), sun : on, *tongue : song, *tongue : strong, *tongue : throng, *tongue : wrong, unsung : belong, unsung : song (Fenton), clucks : Fox, run : on, *tongue : long, *tongue : song (3t), *tongue : throng, *tongue : wrong, *tongues : wrongs, Yung : throng, young : along (2t), young : long, young : song (Gay), *tongue : belong, *tongue : song, *tongue : strong, tun : on, up : stop (Tickell), *Front : on't, *tongue : along, *tongue : long (2t), *tongue : song (2t), *tongue : strong, *tongue : wrong, run : on, Sun : on (2t), Sun : upon (2t), young : long (Pope), Sun : upon, *tongues : wrongs (Green), run : on (3t), Sun : on, *tongue : song, young : song, young : strong (Broome), *front : upon, *among : along, *among : song, *front : ont, money : on-ye, monger : longer, *tongue : along (2t), *tongue : song, *tongue : throng, *tongue : wrong, *tongues : belongs (Byrom), strung : song, stung : song, Sun : on, *tongue : song (2t), *tongue : throng, up : top (Pitt), *among : along (3t), *among : song (3t), *among : throng (3t), begun : on, son : on (Thompson), young : along (2t) (Dyer), *among : along (2t), *among : song, *among : strong, *among : throng (2t), sprong : belong, sprong : strong, sprong : wrong, *tongue : song, *tongues : songs, young : long, young : song, young : throng, young : wrong (West), *among : along, *tongs : belongs, *tongue : strong (2t), *tongue : wrong (Dodsley), *tongue : long, *tongue : arong (3t (Jenyns), borough : sorrow, run : on, *tongue : song (Hamilton), up : sop (Mallet), *among : song, *tongue : along (2t), *tongue : strong, *tongues : wrongs (Harte), *tongue : long, *tongue : song (Lyttleton),

rung : song, *tongue : song (3t), young : along, *tongues : wrongs, young : song (Boyse), *tongue : throng (P. Whitehead), Sun : on, Sung : wrong, up : bishop (Armstrong), run : on, son : long, sung : song, *tongue : wrong (2t), young : long, young : song (Johnson), *among : along, *among : song, hung : along, hung : song, *tongue : song (W. Thompson), *among : song, *among-ye : wrong-ye, rung : song, sung : long, *tongue : song (8t), *tongue : throng, *tongue : Wrong (Shenstone), *among : song, up : shop, stung : song, *tongue : wrong, *tongues : wrongs, young : song (Moore), dung : along, hung : along, hung : throng, rung : song, *tongue : song (2t), young : song (Jago), *among : song (4t), hung : throng, run : on, son : on, *tongue : long, *tongue : song (2t), *tongue : strong, young : throng (W. Whitehead), *among : along, *among : song, *tongue : song (Gray), among : Song (Collins), begun-it : upon-it, *front : upon't, shun-it : upon-it, summons : commons, *tongue : song (2t) (Cambridge), *tongue : along, *tongue : song (3t), *tongues : wrongs (Cawthorn), *tongue : song (5t), *tongue : throng, *tongue : wrong (Akenside), *tongue : wrong (Smollett), *among : song, *tongue : along (3t), *tongue : belong, *tongue : song (J. G. Cooper), hung : along, *tongue : song, *tongue : throng (Wilkie), *among : song (3t), *tongue : strong, *tongue : throng (Fawkes), *among : song (3t), Sun : on (J. Warton), dust : lost, hung : song (2t), hung : strong (Blacklock), *among : throng, discovering : hovering, Sun : upon, *tongue : song, *tongue : wrong (3t), tongs : wrongs (Smart), sung : strong (Grainger), *among : wrong, *among-us : wrong-us, *tongue : along (Cunningham), *among : song (2t), *among : throng (T. Warton), *among : song (2t), *among : thong, *among : throng (2t), son : on, *tongue : along, *tongue : long, *tongue : song (3t), *tongue : wrong, *tongues : wrongs (Mason), son : on (Churchill), among : song, *among : wrong, hung : long, must : lost, sun : on, *tongue : long (3t), *tongue : song,

*tongue : wrong (9t), *tongues : wrongs, up : drop, young : long (Cowper), shun : on, *tongue : song (Falconer), *among : song, sprong : along, sprong : song, young : strong (Lloyd), *among : song (2t), *tongue : song, *tongue : throng, *tongue : wrong (Langhorne), *among : along (2t), *among : long, cover'd : hover'd, *emong : long, hung : along, sprong : long, sprung : long, stung : wrong, *tongue : along, *tongue : long, *tongue : throng, *tongue : wrong, young : long (Mickle), *tongue : along, *tongue : long, *tongue : song (Chatterton), *among : song (2t), *among : throng, *among : wrong, *front : lost, *front : upon't, refund : beyond, sun : upon (2t), young : long, young : strong (Crabbe), *among : song, cover : hover, covers : hovers, *front : upon-it, fun : on, lovers : hovers, run : upon, son : on (5t), stuff : of, summons : Commons, sun : on (2t), *tongue : along, *tongue : belong, *tongue : song, *tongue : strong, *tongue : wrong (2t), young : along (Byron), *among : song, discover : hover, fun : John, fun : on, hung : along, hung : long, hung : song, hung : throng, sung : long, *tongue : long (Keats), *among : long, *among : song (2t), run : on (Shelley).

12a : 11b adust : cross'd (Smollett),

12a : 11a は E Mod E 期以降 L Mod E 期にかけて非常に多く見出されている。

I] (Donson, 1968², § 91) a) ラテン語の countertonic/o/ と n の前の tonic/o/ は OF では [u] となった。covetous, front, stomach の PE 音 [ʌ] はこの ME/u/ に由来するものである。しかし、少なくとも、E Mod E 期には front, stomach には多分ラテン語に由来する ME/ɔ/ 異形が並存していた。I b) (Donson, 1968², § 92) 主として北西中部・東中部・北部・南西部方言では、12 世紀後半までに ___ [ng], [v] の前の OE/o/ は /u/ に高母音化した。among, coventry, hover, mongrel, monger, oven, shovel, tongue 等の PE 音 [ʌ] はこの方言音に由来するものであるが、少なくとも、E Mod E 期には amongst と oven には本来の ME/ɔ/

が異形として並存していた。Bullock は longs を tongues と押韻させ、北部人 Poole は全ての -ong を持つ語は ME/u/ を持つことを示している。12a : 11a の内、ME/u/ の ME/ɔ/ 異形に依存するものには*を付す。ME/u/ と ME/ɔ/ の脚韻は 16-7 世紀では珍しいことではなく、ME/u/ と ME/ɔ/ の同一視は特に Somerset 生まれの Daniel の場合には特に顕著である。彼は、同時に ME/i/ の ME/e/ への低母音化と南西部方言の特色の ME/u/ > [i] をも示している。

II] (Kökeritz, 1953, p. 244) courage : forage は forage の ME forage < OF fourrage に遡る完全韻である。

III] (Donson, 1968², § 92) 北西中部・東中部・北部・南西部方言では、12 世紀後半までに ____ [ng], [v] の前の OE/o/ は/u/ に高母音化した。E Mod E には long, wrong にはこの方言形に由来する ME/u/ 異形が並存していた (ME/ɔ/ の ME/u/ 異形に依存するものには†を付す)。-ung : -ong は既に ME 期から見出され、E Mod E 期には既に伝統的脚韻になっていたかも知れないが、-ung : -ong は ME/u/ を持つ語の ME/ɔ/ 異形か、ME/ɔ/ を持つ語の ME/u/ 異形に依存するかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。現代 Warickshire 方言のように、-ung と -ong が [ɔŋ] で融合している場合には前者の可能性が増してくることになる。Wright (1905, § 101) によると、ME/u/ は今日北部・南西部方言を含むいろんな方言で [ɔ] と発音されていることが示されている。

12a : 12b

cull : full (Gascoigne), cut : put, Goolfe : woolfe, skull : full (Turbervile), gulfe : Wolfe, rushe : bush (Spenser-Sc), full : dull (Spenser-Minor), push : brush, push : gush, push : rush (2t), put : but (Spenser1), cut : put, rebut : put, rush : bush (Spenser2), gush : bush, gush : push, rush : bush (2t), rush : push (Spenser3), bull : dull, bush : blush, push : blush, put : but (Warner), gulf : wolf, summon : woman (Daniel), but-you : put-you, clour : fuller, cut : put (2t), shut : put (3t), skull : full, thrush : bush (Drayton), cut : put, rushes : Bushes

(Drummond), blush : bush, colour : fuller, shut : put (2t), summon : woman (Marlowe), blush : bush, dull : pull, dullness : fullness, gulf : wolf, rushes : bushes (Shakespeare), Gull : pull (Campion), gull'd : pull'd (Donne), cut : put (4t), dull : pull, Gull : pull, shut : put (2t), thrush : bush (Jonson), dull : full (2t) (Stirling), rush : push (Marston), dull : pull (F. Beaumont), dull : full (Ford), shut : put (2t) (Kynaston), blush : bush, blushes : bushes, cul'd : pul'd, dul'd : pul'd, rush : bush (3t), rushes : bushes, shut : put, summon : woman, thrush : bush (Browne), dull : full, nut : put, Nuts : puts, Rush : bush (Herick), dull : full (2t) (Herbert), dull : full (Carew), woman : summon (Chalkhill), dull : full, shut : put (Marmion), dull : full (Benlowe), blush : bush, mud : would (Waller), blush : bush, lull'd : pull'd (Bosworth), colour : fuller, sullen : woollen, thrushes : bushes (Suckling), gull : bull, rush : bush (Whiting), full : wooll (Cartwright), brush : push, scull : full (2t), skulls : bulls, shut : put, skull : full (Butler), scull : full (Crashaw), mull : bull (Cleveland) dull : full (2t), skull : Bull (Denham), blush : Bush, Nut : put, Scull : full (Lovelace), butt : put, nut : put, shut : put (Cowley), but : put (4t), shut : put (Chamberlain), dull : bull, put : but, dull : full, shut : put (Brome), Brush : push, rush'd : push'd (Marvell), dull : full (2t), thrush : bush (2t) (Hannay), Bush : Thrush, dull : full, dulness : fulness, gush : Bush, hush : bush (2t) (Vaughan), dull : full, Thrush : Bush (Cotton), cull : Bull, dull : full, dull : pull, studying : Pudding (Dryden1), blush : Bush, crush : push, culls : Bulls, cuts : puts, dull : full (Dryden2), Skull : Bull, Skull : full (Dryden3), cully : bully (Dorset), cut : put, gut : put, Scull : full (Shadwell), dull : full (4t) (Wilmot), dull : full, thrush : bush (Otway), blush : push (2t), cut : puts, rush : push, rushes : bushes (King), but : put, dull : full (Prior), Blush : Bush, Button : put-on, Cut : put, dull : full (3t), Gut : put, Sculler : fuller, Skull : full (2t), sudden : Pudding, sullen : pull-in, Thrush : Bush (Swift), cull : pull

(Rowe), blush : bush, thrush : bush (Philips), blush : bush (Fenton), Tongue : along, Tongue : Song (4t), Tongue : Throng, Tongues : Songs, Young : Wrong, young : Throng (Diaper), cut-it : put-it, dull : bull (Gay), dull : full (3t) (Pope), dull : full (2t), scull : full (2t), sculler : puller, skull : full, skulls : bulls (Byrom), blush : bush (Dodsley), dull : full (2t) (Jenyns), brush : bush (2t), flush : bush, rush : bush, rush'd : push'd (Brooke), dull : full (Harte), dull : full (P. Whitehead), dull : full (Cambridge), blush : bush (Cawthorn), dull : bull, thrush : bush (Wilkie), blush : bush (Fawkes), thrush : bush (L. Warton), blush : bush, gullet : pullet, rushes : bushes (Smart), brush : bush, sudden : puding (T. Warton), culls : pulls, dull : full, hush : bush, rush : bush, skull : bull, skull : full (Cowper), sons : returns (Lloyd), scull : full (Chatterton), dull : full (3t), skull : full (Crabbe), gush : bush, dull : full (2t), dull : pull, gulf : wolf (2t) (Byron), brush : bush, gulf : wolf, rush : bush (Wordsworth), blushes : bushes, cull : full, dull : full, rushes : bushes (2t) (Keats), but : put (Shelley).

12a : 12b は ME/u/ に依存する脚韻であることを示すだけで、それ以上のことは示さない。正音学者の ME/u/ = [u] > 平唇化 > [ʌ] の証拠は Danies (1640) に初めて示されるが、脚韻の証拠から何時 ME/u/ > [ʌ] になったかは特定できない。

12a : 12c

dust : brust, dust : brust, trust : brust (Spenser-Minor), discust : brust, dust : brust, lust : brust (2t), mistrust : brust, thrust : brust (Spenser3), crust : worste (Warner), dust : burst (Donne), thrust : burst (2t) (Browne), crush'd : nurs'd (Chalkhill), stunted : burnt-it (Swift), lust : curst (Yalden), dust : burst (Watts), trust : worst (Gay), Distrust : worst (Moore), sons : returns (Lloyd), dust : burst (Crabbe).

12a : 12c は burnt, burst, curse の音位転換による ME/u/ 異形 (5- Sc

brunt, 5-6 Brust, 5 cruss) に依存するものである。(Dobson, 1968², Vol 1, p. 112) 語中の [r] が後続する子音に吸収されることは 14 世紀以降卑語でよく行われていた現象であり, Bullokar には onest (honest) : erst, lest : worst (werst), breath : earth, breed : herd, run : worm が見出されているので crush'd : nurs'd, sons : returns, trsut : worst も ME/u/ に依存する完全韻である。

12a : 14a

begun : drawn (Shadwell), Sun : drawn (Fenton).

12a : 14a は PE では [ʌ] : [ɔ:] の不完全韻となる。この種の脚韻は Kökeritz, Dobson にも挙げられていない。Shadwell からのものは begun : drawn : on と三重韻をなしているものであり, 12a : 14a は実質 12a : 11a となり, 方言での ME/u/ > [ɔ] : ME/au/ = [au] > [ɔ:] > [ɔ] : ME/ɔ/ = [ɔ] に依存する完全韻となる。begun : drawn がどの発音に依存しているかと問われれば, ある研究者は [n] の子韻であるとか不完全韻であるとして処理するであろう。しかし, この解釈は不十分である。脚韻とは強勢ある音節以下の母音の発音が同じであるという認識に立ち, 尚かつ脚韻を組織的に収集して初めて特定の脚韻を史的音韻論的に正しく解釈することが可能となる。

12a : 15a

sonne : own (Drayton), son : known, sun : thrown (Waller), son : o'erthrown (Hannay), Sun : own (Hall), run : own (Dryden1), son : known (3t), son : own (3t), son : shown, son : thrown (Dryden2), run : shown, Son : known (2t), Son : own (2t), Son : shown, Son : unknown (Dryden3), begun : own, run : own (2t), Son : known (2t), Son : own, Son : shown, Son : unknown, Sun : own (Dryden4), bud : show'd, run : grown, run : thrown (Sprat), son : shown (Ayres), Son : known, Young : thrown (Wilmot), begun : own, son : grown, son : shown (Garth), son : grown (Duke), run : own, runs : owns, Sun : unknown

(2t) (Blackmore), son : grown (King), begun : known, run : flown, run : known (2t), run : own, son : flown (2t), son : known (2t), son : shown (2t), sons : owns, Sun : own, Sun : shown (Prior), son : own (Granville), shun : own, sun : known (Yalden), mud : strow'd, son : own, Sun : own (2t) (Addison), Son : known, Son : own, sun : known, sun : own (Watts), shun : thrown (Parnell), shun : own, sun : own (Young), Sun : own (Diaper), son : known, son : own (Gay), son : own, sons : owns (Pope), son : own (2t) (Broome), run : own (4t), Son : known (Pitt), son : known (2t) (West), Sun : thrown (Lyttleton), sons : owns (Boyse), son : unknown (P. Whitehead), shun : own, son : o'erthrown, (W. Whitehead), Son : unknown (Gray), son : thrown (Akenside), son : own (Wilkie), gun : flown (Cowper).

12a : 15a は PE では [ʌ] : [ou] となり不完全韻であるが、E Mod E 期から 17 世紀後半にかけ北部・南西部・Scotland 出身の詩人 Drayton (Warwickshire), Waller (Hertfordshire), Hannay (Scotland), Hall (Leicestershire), Dryden (Northamptonshire), Sprat (Devonshire), Ayres (Cottingham), Garth (Yorkshire), Blackmore (Wiltshire), Prior (Dorsetshire), Granville (Devonshire), Yalden (Devonshire), Addison (Wiltshire), Watts (Southampton), Parnell (Dublin), Young (Winchester), Diaper (Somerset), Gay (Devonshire), Broome (Cheshire), Pitt (Dorset), Lyttleton (Worcestershire), Boyse (Dublin), P. Whitehead (Holborn), Akensude (Newcastle), Wilkie (Scotland), Cowper (Hertfordshire) に見出されている。これらの地域では ME/u:/ が [u] に単母音化されていたことがその特色のひとつであった。(Dobson, 1968², § 172) [w] の前では、ME/ɔ:/ は LME までに ME/ou/ に発達した。bestow, bow, flow, glow, grow, low, own, slow, soul, sown strow, tow, trow 等の PE 音 [ou] はこのようにして発達したものである。しかし、この ME/ɔu/ は LME 期に ME/u:/ に単母音化する傾向を示し、少なくとも、E Mod E 期には上記の諸語にも ME/u:/ 異形が並存していた。従って、12a : 15a は [u] (> [ʌ]) : [u:] > [u] (> [ʌ]) に依存する完

全韻である。Wright (1905, §§ 127, 168) は ME/ɔu/ (< ([w] の ME/ɔ:/)) を持つ語は主として北部方言だが, Norfolk, Suffolk, Essex, Kent で [ʌu] と発音されることを示している。又 Dobson (1968², Vol 1, p. 23) によると, 北部人 Levins は ME/ɔu/ を持つ語に規則正しく ME/u:/ を示しているように思われる。

12a : 18a

vtter : Suiter (Raleigh), adiudge : deluge, aiudge : refuge, Iudge : deluge, Iudge : huge, Iudge : refuge, judge : huge, hudge : refuge (Stirling), scum : fume (Marston), consume : come (Kynaston), gums : consume (Chalkhill), come : consume (Sprat), begun : tune, trust-to : us'd-to (Prior), come : consume (Yalden), gums : fumes (Addison), become : comsume (Hughes), sons : tunes (Dodsley), becomes : plumes (W. thompson), come : presume, Sun : tune (W. Whitehead), come : presume (Lloyd), discussion : dissolution (Byron),

12b : 18a

full : rule (Pope), full : misrule (Brooke), full : rule (Smart).

12a : 18a, 12b : 18a は E Mod E 期以降散見され, 12a : 18a, 12b : 18a = [u] : [iu] > [ju:] > [u:] > [u] に依存する完全韻である。ME/eu/ が方言で [iu] > [ju:], 更に [u:] (> [u]) に変化したことを示す脚韻となる。

12b : 4a

woman : broom-man (Brome), Bosom : lose'em (Swift), full : Fool (Shadwell), Bosom : lose'em (Swift), Bull : school, woman : two-men (Byron).

12b : 4a は稀であり, 4a を持つ語の ME/o:/ > [u:] > [u] に依存する完全韻である。woman < OE wimman 古くは wifman が用いられていた。-fm- は LOE で -mm- に同化された。ME wimman, wimmen は 15 世紀まで用いられたが, 1200 年頃, [w] の円唇化によって, wi- > wu- の変化を受けた wumman という形が主に西部方言で一般化した。更に, 13

世紀末には woman, 14 世紀末には複数形 wommen が現れてくる。Mod E woman, women はその発達だが, 複数形は [wi-] が標準形となった。その原因として, 第二要素の -man, -men はアクセントがないので不注意な発音では区別されないため, foot --- feet 等との類推で単・複数を区別しようとしたこと, 第二音節の母音への同化 [wimin] が考えられる。

12b : 4d

wold : shold, wold-not : coule-not, would : should (Wyatt), would : should (Surrey), full : wooll, would : could (2t) (Gascoigne), full : wull, would : could (Turberville), would : should (Spenser-Sc), would : should (Spenser-Minor), would : could (Spenser1), would : could, would : should (Spenser2), would : could (Spenser6), pull : wooll (Raleigh), would : could (4t), would : should (2t) (Sidney), would : should (4t) (Warner), would : should (Shakespeare), would : could (3t), would : should (3t) (Daniel), would : could (2t), would : should (2t) (Donne), would : could (7t), wou'd : good, would : should (Jonson), full : wooll (J. Beaumont), would : understood (F. Beaumont), would : could (Kynaston), would : could, full : wool, full : wooll (3t) (Herrick), would : good (Marmion), would : good (Benlowe), would : stood (Camberlain), would : stood, would : withstood (Brome), full : woole (Vaughan), wou'd : good (2t) (Cotton), would : good (Philips), wou'd : stood (Dryden4), full : wool (walsh), full : wool (2t) (King), full : wool, pull-in : Woolen, would : good (Swift), would : good, full : wool, pull-in : Woolen (Swift), put : foot, would : good (Pope), wou'd : good (3t) (Byrom), wou'd : good (Boyse), wou'd : good (J G Cooper), wou'd : good (Churchill) would : good (2t) (Byron), would : good (Keats),

12b : 4e

wou'd : Flood (Swift), would : blood (Benlowe), would : bloud (Cartwright), would : blood (Brome), wou'd : Blood, would : Flood (Marvell), would : blood (Vaughan), wou'd : bloud (Dryden2), wou'd :

Flood (Swift), would : blood (Jenyns), pudding : flooding (Jago).

12a : 4d, 12a : 4e は E Mod E 期以降散見されており, would の [u:] > [u] : ME/o:/ = [o:] > [u:] > [u] に依存するものである。(Dobson, 1968², § 4) would は E Mod E には四つの異形 (1) [wu:ld] 最も普通の発音で OE/ɔ/ の homoagentic lengthening の出力, 2) 1) の短母音形, 3) ME/u:/ 異形 (ME/u/ > ME/u:/ ___ld か ME/ɔu/ > LME/u:/ ___ld による), 4) ME/u:/ の短母音形又は ME wulde) が並存していた。

12b : 7a

*wold : holde, *would : beholde, *would : cold, *would : gold, *would : hold, *would : rolde, *would : vphold (Wyatt), *wolde : golde (Surrey), *would : Gold, *would : gould, *would : hold (Gascoigne), *would : Golde (Turberville), *wolde : folde, *would : told, *would : vnhold (Spenser-Minor), *would : hold, *would : old, *would : tould, *would : vntold (Spenser1), *would : bold, *would : gold, *would : hould (Spenser2), *would : behold, *would : bold (Spenser4), *would : hould (Spenser5), *would : bold, *would : gould, *would : hould (2t) (Spenser6), woman : no-man, *would : gold, *would : golde, *would : hold (Sidney), *would : bold (Lyly), *would : behold, *would : bold, *would : controll'd, *would : hold (4t), *would : infold (Daniel), *would : gold, *would : hold (Drayton), *woman : no-man (Shakespeare), *would : fold (2t), *would : gold, *would : old (2t) (Jonson), *would : bold, *would : controul'd, *would : extold, *would : gold, *would : hold, *would : sold, *would : told (2t) (Stirling), *would : hold (P. Fletcher), *would : gold (F. Beaumont), *would : old (Drummond), *would : roll'd (G. Fletcher), *would : old, *would : told (Browne), *would : gold (2t) (Herrick), *would : cold, *would : told (Chalkhill), *would : gold (2t), *would : told, *would : unfold (Whiting), *would : foretold, pull'd : hold, pudden : ode-on (Butler), full : whole (Crashaw), *would : behold (Hannay), *would : bold, *would : hold (Hall), woman :

no-man (Dryden1), *would : behold (Hammond), full : roll, full : whole (2t) (Blackmore), woman : no-man (King), Bull : roll (Prior), woman : no-man (Congreve), bosom : disclose'em (W. Whitehead), *would : tould (Mickle), woman : no-man, woman : Roman (Byron),

12b : 15a

*would : mould (Surrey), *would : mould (Gascoigne), *would : mould, *woulde : mowlde (Turbervile), *would : mould (Spenser1), *would : mould (Spenser2), *woman : know-man (Sidney), *would : mould (G. Fletcher), pull : soul (Hall), full : soul (King).

12b : 7a, 12b : 15a は PE では [u] : [ou] となり不完全韻であるが、E Mod E 期以降見出されている。

I] (Dobson, 1968², § 4) would には ME/u:/ 異形 (ME/u/> ME/u:/___ld か ME/ɔu/>LME/u:/___ld による) が並存していた。

II] (Dobson, 1968², § 169) [l] の前の ME/ɔ:/, /ɔ/ は LME までに、ME/ɔu/ に発達した。bold, bole, bolster, coal, cold, dold, dolt, extol, folk, gold, molten 等の PE 音 [ou] はこのようにして発達したものである。更に (Dobson, 1968², § 170) [x] の前の ME/ɔ:/ は LME までに、ME/ɔu/ に発達した。dough, though 等の PE 音 [ou] はこのようにして発達したものである。従って、12b : 7a, 12b : 15a は実質 1a : 15a (ME/u:/ = [ou] : ME/ɔu/ = [ou] の完全韻又は [o:] の類韻) となり E Mon E 期に ME/u:/ に [ou], ME/ɔu/ に [ou] が存在していた証拠となる。Kökeritz (1953, p. 245) は ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻を「これらは伝統的脚韻である」として、証拠から除外している。彼は ME/u:/ は [ʌu] であったと考えているので、視脚韻という伝家の宝刀を抜く以外にはこれらの脚韻を証拠資料から取り除く方法はなかったことになる。ある脚韻を伝統的脚韻と見なすには古い時代には完全韻であったこと裏付けが必要である。ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻は E Mod E になって初めて見出されている。以前には見出されず、この時期になって初めて見出される脚韻を「明らかに伝統的脚韻である」とするのは極めて不自然である。Dobson (1968², §§ 187-176) は ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻を ME/ɔu/

の ME/u:/ 異形に依存するものとして退けている。ME/ɔu/ と ME/u:/ の変動のあった正音学者の証拠は確かに存在する。Price (1668) は bole, bolster に [ʌu] を与え, Hodeges (1649) は近似音表で sow (種をまく) と sow (雌豚), sower (種をまく人) と sour を対にしている。異形の存在は異形に依存するかも知れないという可能性を残すだけで, 異形に依存する脚韻であることの証拠にはならない。ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻は E Mod E 期以降ほぼどの詩人にも見出されている。かなりの詩人に見出されているかなりの脚韻を全て異形に依存するものとして退けるのは決して自然ではない。ME/ɔu/ と ME/u:/ の変動のあった正音学者の証拠が見出されるのは [l, x, w] の前の ME/ɔu/ に対してだけであるのに対し, ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻はこの環境のものに限定されていない。平郡 (1981) によると, [d, n, s] の前でも ME/u:/ と ME/ɔu/ の脚韻は見出されていること, 及び ME/u:/ (= [ou]) と ME/ɔ:/ ([ɔ:] > [o:]) の類韻が 1a : 15a ほど頻繁ではないが E Mod E 期以降見出されていることを考慮すれば, ME/u:/ に [ou] を認めない Dobson, Kökeritz には極めて不利になる。Wright (EDGr §§ 127, 168) によると, ME/ɔu/ を持つ語は Norfolk, Suffolk, Essex, Kent で, OE/ow/ を持つ語は主として北部方言で, そして又 Kent で ME/ɔu/ との融合の名残である [ʌu] と発音されていることが示されているので, これらの方言では 1a : 15a は完全韻, それ以外の方言及び標準英語では類韻ということになる。1a : 15a には* を付す。woman : no-man, pudden : ode-on, full : roll, full : whole, Bull : roll, bosom : disclos'em は ME/u/ = [u] : ME/ɔ:/ = [ɔ:] > [o:] > [u:] > [u] に, pull : soul, full : soul は ME/u/ = [u] : ME/ɔu/ = [ɔu] > [ou] > [o:] > [u:] > [u] に依存する完全韻である。Shakespeare (TGV 3.1.104-5) にも woman : no-man が見出されるが, Kökeritz (1953, p. 233) はこれを Valentine がユーモラスな効果を高めるために異形 [nu:] を使用したもの, あるいは [no : man] と押韻させるために滑稽さを狙ってわざと綴字発音 [wo : man] を利用したものと考えている。

12b : 11a

woman : common (Daniel), woman : common (Stirling), woman : common, woman : uncommon (Ford), woman : common (Kynaston), woman : common (Browne), pudden : sodden, woman : Common (Butler), woman : common (Brome), bosome : Blossome (Vaughan), Woman : Common (3t) (Dryden1), Woman : Common (Wilmot), woman : common (2t) (Prior), woman : common, woman : uncommon (Congreve), woman : common (Boyse), woman : uncommon (Moore), woman : common (2t) (W. Whitehead), woman : common (Wilkie), woman : common (Cunningham), woman : common (Byron), bosom : blossom (Wordsworth), bosom : blossom (Shelley).

12b : 11a は E Mod E 期以降散見される程度である。(Dobson, 1968², §§ 92, 97) 方言での ME/u/ の ME/ɔ/ 異形か ME/ɔ/ の ME/u/ 異形に依存する脚韻の何れかであり、完全韻である。Wright (Index) によると, woman は Scotland, Leicestershire, Shropshire, Norfolk で [wóme n] と発音されていることが示されている。

12c : 1d

nourse : course (Wyatt), burne : mourne, returne : mourne (Surrey), cursse : source (Turberville), *worse : course, tourne : mourne (Spenser-Sc), burne : mourne, Nurse : sourse, retourne : mourne (2t), returne : mourne, returning : mourning, tourne : mourne (5t), turne : mourne, wourst : discourst (Spenser-Minor), returne : mourne, returne : mourne, turne : mourne (Spenser1), bourne : mourne, tourne : mourne, nourse : sourse (Spenser2), burne : mourne, returne : mourne, turne : mourne (Spenser3), retourne : mourne, tourne : mourne, wourse : course, wourse : sourse (Spenser5), turne : mourne (Spenser6), returne : murne (Raleigh), burne : mourn (Lyly), return : mourn, *worse : course, (Souttwell), return : mourn (3t), nurse : course (2t), *worse : course (17t), *worse : discourse (Daniel), burn'd : mourn'd,

burning : mourning, spurn'd : mourn'd, returne : mourne, turne :
 mourne, turn'd : mourn'd (2t), turned : mourned, urne : mourne
 (Drayton), burn'd : mourn'd (2t), turn'd : mourn'd (Marlowe),
 burned : mourned, burneth : mourneth, burning : mourning, returne :
 mourn, returne : mourne (2t), return'd : mourn'd, returning : mourn-
 ing (2t), turne : mourne, turned : mourned, turning : mourning
 (Campion), *worse : course (Davies), oreturne : mourne, returne :
 mourne, turne : mourne, turn'd : mourn'd, *worse : course, *worse : dis-
 course (Donne), Nourse : course, Nurse : Course, *worse : course,
 *worse : discourse (Jonson), burne : mourne (10t), burnes : mournes,
 returne : mourne (5t), turne : mourne (5t) (Stirling), turne : mourne,
 *worse : course (Corbet), burning : mourning (P. Flethcer), *worse :
 discourse (F. Beaumont), burn : mourn (2t), return : mourn (2t),
 turn : mourn (4t), Urn : mourn (Drummond), returning : mourning
 (Ford), return : mourn, returns : mourns, return'd : mourn'd (Kynas-
 ton), burning : mourning, returne : mourne, turne-her : mourner, re-
 turning : mourning (2t), turning : mourning (2t) (Browne), burn :
 mourn, returne : mourne, turning : mourning (Herrick), *worse : dis-
 course (King), *worse : course (Chalkhill), burn'd : mourn'd, return :
 mourn (6t), returne : mourne, returns : mourns, turn : mourn, *worse :
 course, turn'd : mourn'd (4t) (Davenant), burn : mourn, return :
 mourn (Waller), vrne : mourne (Habington), return : mourn (Mil-
 ton), turn : mourn, returning : mourning (Whiting), urn : mourn
 (Cartwright), adjourn : mourn, purse : course, spurse : course, *worse :
 course (10t), *worse : yours, *worth : fourth (Butler), hurt : Court,
 turn'd : mourn'd (Crashaw), *worse : course (Cleveland), hurt : Court,
 turn : mourn (Denham), burnes : mournes (2t), return : mourn, Urn :
 mourn (Lovelace), return : mourn (Sherburne), turn : mourn (Cham-
 berlain), return : mourn, turn : mourn, *worse : course, worse : dis-
 course (Brome), burn : mourn (2t), turns : mourns, turn'd : mourn'd

(Marvell), urn : mourn (Stanley), burn : mourn, burneth : mourneth, burns : mourns (2t), return : mourn (3t), returning : mourning, returns : mourns (2t), turn'd : mourn'd, turneth : mourneth, turns ; mourns, urn : mourn (Hannay), adjourns : mourns, burn : mourn, return : mourn (2t), returne : mourne, returns : mourns (2t), turn : mourn, turn'd : mourn'd (2t), turns : mourns, urn : mourn (2t), Urne : mourne, *worse : Course (2t), *worse : discourse (Vaughan), return : mourn (Philips), Curse : Discourse, Nurse : Discourse, return : mourn (2t), Return'd : Mourn'd (3t), turn'd : Mourn'd, *worse : recourse (Dryden1), burn : mourn, burn'd : mourn'd, burns : mourns, return : mourn (5t), return'd : mourn'd (5t), returns : mourns, turning : Mourning, Urn : mourn, *worse : course (3t) (Dryden2), return : mourn (4t), turn : mourn, return'd : mourn'd (2t), turn'd : mourn'd (Dryden3), burn'd : mourn'd, Purse : course, Return : mourn (6t), Return : Urn, return'd : mourn'd (3t), returns : mourns, turns : mourns, *worse : course (Dryden4), turn : mourn (Roscommon), burning : mourning, return : mourn, return'd : mourn'd (Flatman), return'd : mourn'd (Ayres), burn : Mourn (2t), return : Mourn (3t), turn : Mourns, Urns : Mourns (Shadwell), return : Mourn (Wilmot), return : mourn (2t) (Sheffield), return'd : mourn'd (3t) (Otway), burn : mourn, urn : mourn (Garth), return'd : mourn'd (Duke), returns : mourns (Smith), unhurt : court, *worse : course (Walsh), *worse : course (Stepney), return : mourn, turn'd : mourn'd (2t), *worse : discourse (3t) (King), return : mourn (11t), return'd : mourn'd (2t), returning : mourning, returns : mourns, turn : mourn, turn'd : mourn'd (2t), unturn'd : mourn'd, urn : mourn (2t), urns : mourns, *worse : course (2t), *worse : recourse, *worst : discours'd (Prior), burn'd : mourn'd, burn'd : mourn'd, burns : mourns, return : mourn (5t), return'd : mourn'd, turn'd : mourn'd, returns : mourns, urn : mourn (3t) (Pomfret), burn'd : mourn'd, burns : mourns, re-

turns : mourns (Granville), *Worse : Course, *worse : discourse (Swift), return : mourn (6t), turn : mourn (2t), turns : mourns, urn : mourn (2t), return'd : mourn'd (Congreve), burn : mourn, burn'd : mourn'd, return : mourn (3t), turn : mourn (2t), urn : mourn (Yalden), return : mourn (3t), turn : mourn, turns : mourns, urns : mourns (Rowe), return : mourn, return'd : mourn'd, turn'd : mourn'd, urn : mourn (2t), urns : mourns (Addison), return : mourn (3t), returns : mourns, urn : mourn (Philips), return : mourn (5t), urn : mourn (3t) (Somerville), nurse : source, return : mourn, turns : mourns, urn : mourn (2t) (Watts), return : mourn (6t) (Hughes), return : mourn, urn : mourn (Parnell), return : mourn (2t), return'd : mourn'd, turn : mourn, urn : mourn, turn'd : mourn'd (Young), nurse : discourse, return : mourn, return'd : mourn'd, return'd : mourn'd (2t), returns : mourns, *worse : course (Fenton), burn : mourn (2t), Nurse : Course, Return : mourn (3t), Urn : mourn (3t) (Diaper), burn'd : mourn'd, burns : mourns, return : mourn (6t), return'd : mourn'd (2t), returns : mourns, spurn : mourn, turn'd : mourn'd, urn : mourn (Gay), burns : mourns, urn : mourn (2t), urns : mourns (2t) (Tickell), burn : mourn (2t), burns : mourns, return : mourn (2t), urn : mourn (6t) (Pope), return : mourn, returns : mourns, turns : mourns (Broome), *worse : course (Byrom), return : mourn, urn : mourn (2t) (Pitt), turn : mourn, turns : mourns (West), return : mourn (4t), return'd : mourn'd (2t), returning : mourning, urn : mourn (2t) (Hamilton), turn : mourn (Mallet), return : mourn (2t) (Brooke), return'd : mourn'd (4t), returns : mourns, turn : mourn, *worse : course (Harte), urn : mourn (Lyttleton), return : mourn (3t), returns : mourns, turn : mourn, turns : mourns, urn : mourn (14t) (Boyse), burns : turns, return : mourn (2t), returns : mourns (Johnson), return : mourn, *worse : course, *worth : fourth (Moore), urn : mourn (W. Thompson), burn : mourn, return : mourn (3t), urns : mourns (Shenstone),

return'd : mourn'd (3t) (Jago), return : mourn (Collins), burns : mourns, return : mourn (3t), return'd : mourn'd, returns : mourns, turn : mourn (Cambridge), urn : mourn (2t), urns : mourns (Cawthorn), burn : mourn, return : mourn (2t), return'd : mourn'd, returns : mourns, urn : mourn (Akenside), burn'd : mourn'd (3t), return : mourn (3t), return'd : mourn'd, returns : mourns, turn : mourn, turn'd : mourn'd (2t), *worse : course (3t), *worse : discourse (2t) (Wilkie), return : mourn, urn : mourn (2t) (Fawkes), return : mourn (6t), returns : mourns (2t), turn : mourn, urn : mourn (2t) (Blacklock), *worth : fourth, return'd : mourn'd, returning : mourning (Smart), burn : mourn, urn : mourn (Grainger), urn : mourn (Mason), burns : mourns, return : mourn (3t) (Scott), *worse : source (Churchill), return : mourn (3t) (Cowper), return : mourn, turns : mourns (Falconer), burn'd : mourn'd, return : mourn (4t), return'd : mourn'd (3t), urn : mourn (5t) (Langhorne), burn : mourn, return : mourn (2t), return'd : mourn'd, returns : mourns, spurn'd : mourn'd, turn : mourn, urn : mourn (Mickle), burn : mourn (3t), return : mourn (3t), return'd : mourn'd, turns : mourns, urn : mourn (3t) (Beattie), turn'd : mourn'd (Lovibond), return : mourn, urn : mourn (2t) (Logan), return : mourn (3t), *worse : course (Crabbe), return : mourn, turn : mourn, urn : mourn (2t), *worth : Fourth (Byron), burn : mourn (Wordsworth), burnest : mournest, turnd : mourns (Keats), return : mourn (Shelley).

12c : 1d は E Mod E 期以降頻繁に見出されている。17 世紀後半のものは伝統的脚韻である可能性が強いが、16 世紀後半のものはこの種の脚韻が見出されるのはこの時期からであるので伝統的脚韻として処理できない。1d を持つ語の PE 音 [ɔ:] は ME/u:/ が ___ [r] C の環境で二重母音化しないで [ɔ:] に低母音化したことに由来する。

I] Kökeritz (1953, p. 249) によると, course, source には ME/u/ 異形が並存していた。又 Dobson (1968², § 19) は court, mourn に ME/u/ 異形が並存していた証拠があるので, これらを含む脚韻は ME/u/ 同士に

脚韻である。

II] (Dobson, 1968², §§ 16, 90, 92) work, word, worse, world, worth には ME/ɔ/ が並存していた正音学者の証拠があるので、これらの語と 1d の脚韻は [ɔ:] に依存する脚韻である。(*を付す)。12c: 1d は 1d を持つ語の ME/u/ 異形か、12c を持つ語の ME/ɔ/ 異形に依存すかのどちらかであり、何れにしても完全韻である。

12c: 3b

curse: pierce (Churchill), curse: fierce (2t), word: appear'd (Byron).

12c: 3b は稀であり、(Dobson, 1968², §§ 8, 9) appear, fierce, pierce の ME/ɛ/r 異形 (= [ɛ:]) に依存するものである。

12c: 7c

retorne: torne (Wyatt), retorne: beforne (Spenser-Sc), returne: borne (Spenser-Minor), returne: sworne, word: ador'd, word: scor'd (Spenser1), torne: ouerborne (Spenser4), returne: borne (Spenser6), returne: borne (Lyly), return: born, return: forborn, return: un-born, unworthy: for-thee, worse: force (Daniel), word: ador'd, spur'd: restor'd (Drayton), burne: torne (Corbet), worse: horse (F. Beaumont), turn: born (Drummond), return: born (G. Fletcher), burn: torn, turn: worn (Davenant), returne: worn (Waller), turn: sworn (Cartwright), turn: born, turn: forsworn, turn: sworn, turn: worn, worse: sores (Butler), return: born (Cowley), word: ador'd (Brome), burn: torn, Return: born, Return: Scorn, turn: born (Dryden1), return: born, turn: born (2t), Urn: born, word: restor'd (Dryden2), return: born (5t) (Dryden3), return: born, Turn: forborn, turn: worn, Word: restor'd (Dryden4), urn: born (Sprat), turn: borne, word: soar'd (Sheffield), return: born, return: borne (Otway), urn: forsworn, word: restor'd (Duke), absurd: ador'd,

return : borne (Blackmore), return : borne, return : worn, word : ador'd, word : pour'd, word : restor'd, word : snor'd (Prior), word : restor'd, urn : torn (Congreve), return : born, return : borne (Rowe), return : borne (Addison), return : borne, return : worn (Somerville), word : roar'd, urn : unborn, urn : worn (Watts), turn : born, urn : worn (Hughes), word : restor'd (Young), return : borne (2t) (Gay), return : born (2t), return : unborn, turn : born, turn : worn, word : board, word : restor'd (Pope), return : borne (Pitt), turn : torn (West), word : ador'd, word : restor'd (Lyttleton), urn : unborn (W. Whitehead), word : gor'd (Cambridge), return : borne (J. G. Cooper), word : restor'd (Wilkie), return : bourne (Fawkes), turn : worn (Smart), word : board (Lovibond), return : born (Logan), word : restored (Crabbe), church : porch, word : pour'd, word : restored (Byron), turn : borne (Wordsworth), urn : bourne (Keats), burn : bourne (Shelley),

12c : 11c

burne : scorne, returne : scorne, worth : forth (2t) (Surrey), worde : sworde (Turberville), wormes : stormes, words : loord, worth : forth (Spenser-Sc), returne : forlorne, returne : scorne, word : afford, word : Lord, woorth : foorth, words : Lords, words : swords, worth : forth (6t) (Spenser-Minor), world : Lord (Spenser1), tournes : bornes, word : accord (2t), word : bord (2t), word : ford, word : Lord, worth : forth (2t) (Spenser2), word : aboard, word : accord (2t), word : afford (2t), word : bord (3t), word : ford, word : lord, word : record, words : swords (Spenser3), word : accord, word : afford, word : Lord, words : Lords, torne : scorne, worth : forth (2t) (Spenser4), retourned : perfourmed, retourned : refourmed, tourne : transforme, word : accord (2t), word : afford (2t), word : Lord, word : sword (3t), worth : forth (Spenser5), hurt : support, retourne : forlorne, returne : scorne, word : afford, word : sword (Spenser6), words : affords (Raleigh), word :

afford, woord : affoord, words : affords (2t) (Sidney), woorth : foorth, retorne : morne (Lily), word : aford, word : cord, words : swords (3t), worse : force, worth : forth (Warner), hurt : exhort, hurt : fort, hurt : port, hurt : resort, hurt : short, hurt : sort, hurt : support, hurt : transport, nurse : force, return : scorn (2t), turn : scorn, word : afford (2t), word : lord (4t), word : record, word : sword (2t), words : accords (3t), words : affords (5t), words : cords, words : records, words : swords (3t), worse : enforce, worse : force (14t), worse : remorse, worst : divorc'd, worst : enforc'd (2t), worst : forc'd (2t), worth : forth (12t), worth : North (7t) (Daniel), durst : enforc'd, spur'd : sword, word : aboard, word : afford (3t), words : affords (5t), word : Lord (2t), word : record, Word : sword (2t), words : swords, worse : force, worse : remorse, worst : enforc'd, worth : forth (7t), worth : north (3t) (Drayton), worth : forth (2t) (Marlowe), adjourn'd : perform'd, word : afford, word : Ford, word : Lord (9t), word : record, word : sword (5t), words : affords (4t), words : fords, words : lords, words : swords worth : forth (6t) (Shakespeare), burned : scorned, word : afford, word : record, words : swords (Campion), worth : north (Davies), retorne : scorne, Word : sword, word : Lord (2t), words : affords (3t), words : boards, worth : forth (6t) (Donne), returne : scorne, word : sword (4t), word : boord, word : Lord (2t), words : affords (2t), words : records, worse : horse, worth : foorth, worth : forth (16t) (Jonson), word : afford (2t), word : Lord, word : record, word : sword, words : affoords, words : affords (6t), words : lords (2t), words : records (2t), words : swords, woorth : foorth, worme : forme, worme : storme (2t), worse : divorce, worse : force (3t), worse : remorse, worth : forth (23t), worth : north (12t) (Stirling), word : afford, word : Lord (3t), worde : Sworde, words : affords, worse : horse, worth : forth (2t) (Corbet), word : afford (2t), words : affords, worth : forth (3t) (Marston), turn : forlorn, turn : scorn, turn'd : adorn'd,

turn'd : scorn'd, word : afford, word : ford, word : Lord (3t), word :
 sword, words : affords, words : lords, words : swords (2t) (P.
 Fletcher), word : lord (2t), words : affords, words : swords (6t),
 worth : forth (J. Beaumont), word : sword, words : affords (2t),
 words : swords, worth : forth (4t) (F. Beaumont), burn : Morn,
 scourge : forge, turn : Morn (2t), Word : Sword, word : afford, word :
 Sword, Words : affords, words : swords, Worth : forth (10t), worth :
 forth (9t), worth : North, World : Lord (Drummond), word : lord,
 worth : forth (3t) (Ford), words : affords (2t), words : swords, worse :
 corse, worth : forth (2t) (Kynaston), return : morn (G. Fletcher),
 returne : morne, word : afford, word : sword, words : affords (3t),
 worms : storms, worne : morne, worth : forth (8t), worth-him : forth-
 him (Browne), word : aford, word : Lord (2t), word : sword, Worth :
 forth (5t), worthe : forth (Herrick), hurt : sport, return : scorn, word :
 board, word : Lord (2t), words : swords (2t), worth : forth (King),
 curse : hoarse, Word : sword, word : afford, word : Lord (3t), words :
 accords, word : board, words : affords (2t), worm : reform, worth :
 forth (Herbert), returne : Morne, returne : scorne, word : afford (2t),
 word : Lord (2t), word : record, word : sword, Worth : forth (3t)
 (Carew), hurt : report, returns : horns, words : lords, words : swords,
 worms-too : storms-too, worse : force, worth : forth (Chalkhill),
 worth : forth, worm : perform (Marmion), Word : Lord (2t), Word :
 record, ords : affords, worse : divorce, worse : force (Benlowe), return :
 adorn, turn'd : adorn'd, words : affords, worth : forth (4t), turns :
 scorns (Davenant), return : scorn, Word : afford (2t), Word : Lord,
 word : board, word : sword (5t), worth : forth (5t), worth : north
 (Waller), wormes : stormes, worth : forth (Habington), word : sword,
 words : affords, words : swords, worse : force, worth : forth
 (Bosworth), word : Lord, worth : forth (Milton), further : order
 (Suckling), word : lord, words : lords (2t), worth : forth (8t)

(Whiting), urn : morn, word : afford, words : affords (3t), worth : forth (3t) (Cartwright), church : porch, curds : affords, curse : force, further : order (2t), hurt : for't (4t), hurt : sort, murder : order (2t), murther : order, nurture : mortar, returns : scorns, scourg'd : forg'd, purse : horse, return : scorn (2t), spurs : horse (2t), turn : morn, turns : corns, turn : scorn, turns : horns, word : accord, word : afford (2t), word : board, word : Lord (3t), word : record (5t), word : sword (8t), words : affords, words : boards, words : lords (2t), words : swords, work : fork, work : pork, worm : reform, worm'd : reform'd, worse : voarse, worse : force (5t), worse : horse (3t), worst : forc'd, worth : forth (5t) (Butler), burne : scorne, burts : sports, returnes : Thornes, returnes : Thorns, turne : morne, Word : Bord, word : Lord (5t), words : affords, words : swords, worth : forth (7t), worth : North (Crashaw), word : sword (2t), words : affords, words : Lords, worse : horse (2t), worth : forth, worth : North (Cleveland), return'd : transform'd, words : affords (2t), words : records, words : swords (2t), Worms : forms, worse : forse, worth : forth (Denham), burnes : scornes, spurne : Morne, turne : scorne, word : afford, worth : forth (3t) (Lovelace), words : affords (2t), worth : forth (3t) (Cowley), word : afford, words : affords (3t), worth : forth (Sherburne), word : afford (3t), word : sword, words : affords (6t), words : records, words : swords, worth : forth (8t) (Chamberlain), church : porch, word : Lord, word : sword (2t), words : lords (2t), worth : forth (4t) (Brome), words : affords, urn : scorn (Stanley), turn : scorn, wod : afford (3t), words : affords (5t), words : Lords, worth : forth (8t) (Hannay), word : Lord, word : sword, words : afford, words : Swords (2t), world : Lord (2t), worth : forth (5t) (Vaughan), turn : forlorn, turns : horns, Word-Sir : sword-Sir, worse : force, worth : forth (2t) (Cotton), words : affords (2t), worth : forth (Philips), burn : scorn, return : scorn, return'd : Scorn'd, returning : Morning (2t), Word : Record,

word : afford (3t), word : Sword, words : affords (3t), words : Lords, worse : forse (2t), Worth : forth (3t) (Dryden1), burn : Corn (2t), burn : Scorn, lurk : Cork, return : Corn, return : Morn, return : Scorn, turn : Corn (3t), turn : Morn, word : afford (2t), word : Board, word : Lord (25t), Words : affords (5t), words : Records, words : Swords, work : Cork, worse : force, worth : forth (3t) (Dryden2), burn : Corn, burns : Horns, Chursch : Porch, burn'd : adorn'd, Return : scorn, urge : Forge, Urn : Corn, Word : Ford, Word : Lord (2t), Word : Sword (5t), Words : Swords, Worth : forth (Dryden3), church : porch, return : adorn (2t), return : Morn, return : Scorn (2t), returns : adorns, return'd : scorn'd, spurr'd : Sword, turn : Scorn, Word : Lord, Word : Record, Word : Sword (4t), word : accord (2t), word : afford, Words : affords (2t) (Dryden4), word : Lord, word : sword, words : affords (Roscommon), hurt : sport, word : sword, words : lords, worth : forth (Sprat), turn : scorn, word : sword (Halifax), curse : divorce, return'd : adorn'd, word : afford, word : Lord, words : swords, Worth : henceforth (Flatman), word : lord (Ayres), return : adorn, return : born, return : Morn (2t), turn : born, Word : Lord, word : Sword (2t), worse : force, worth : forth (Shadwell), Turn : Scorn (2t), word : Sword, Worth : forth (Wilmot), worth : forth (4t) (Sheffield), worth : North (2t) (Hammond), word : lord (Otway), word : sword, words : affords, words : awords (Garth), word : sword (Duke), turn : adorn, turn : morn (2t), turn'd : ador'd, word : Lord (2t), words : affords, worm : form (2t), worm : storm (Blackmore), burn : scorn, return'd : scorn'd (Walsh), word : lord (Stepney), burn : scorn, purses : horses, return : scorn, return'd : scorn'd, word : afford, word : lord, word : sword (3t), work : pork, works : forks, worse : force, worse : horse (2t) (King), return : adorn, word : afford, word : board (2t), word : lord (3t), word : sword (2t), words : affords, words : swords (2t), worse : force, worse : horse, worth : forth (3t) (Prior), word : fort, words : force, worse :

force (Pomfret), return : scorn, word : lord, word : sword (Granville), Word : afford, Word : Lord (2t), Word : Record, Words : affords, words : swords, Worm : Form (Swift), return : scorn, return'd : adorn'd, turn'd : adorn'd, word : afford, words : lords, worth : forth (2t) (Congreve), return : adorn, turn : scorn (2t), word : board, words : Lods, worth : forth (3t) (Yalden), worth : forth (4t), return : morn (Rowe), words : affords (2t), worth : forth (2t), turns : horns (Addison), word : sword (Philips), return : morn, turn : scorn, word : sword, worse : coarse, worth : forth (6t) (Somerville), hurt : sport, sword : Lord (16t), words : swrods, worm : perform, worms : forms (8t) (Watts), return : scorn, return : sworn, urn : adorn, worth : forth (Hughes), word : sword, words : Lords (Parnell), murder : order, return : morn, urn : adorn (2t), word : board, word : sword, words : affords (2t), worth : forth (2t) (Fenton), return : Scorn, turn : Scorn, Word : afford, Word : Lord (2t), Words : affords, Worm : Form (2t), Worms : Forms (Diaper), return : scorn, word : aboard, word : afford, word : board, word : lord, words : affords, words : lords, work : fork (2t), worth : forth (2t) (Gay), burn'd : ador'd, return'd : adorn'd, turn : scorn, word : sword, turn'd : adorn'd, worth : forth (Tickell), burn'd : scorn'd, turn : morn, word : afford (2t), word : cord, word : Lord (3t), word : sword, Words : Lords, works : corks, worms : forms (4t), worse : horse, worth : forth (3t), urns : horns (Pope), purse : coarse, return : forlorn, word : afford, word : Lord (3t), worse : coarse, worse : force, worth : forth (5t) (Byrom), curse : divorce, words : affords, work : fork, worth : forth (Pitt), word : afford, word : lord, worm : deform, worm : form (2t), worm : storm (Thompson), turn : forlorn, words : chords (West), words : affords, burning : morning (Dodsley), hurk : sport, words : swords, work : pork, worth : forth (2t) (Jenyns), word : afford, word : lord (3t), words : affords (2t) (Hamilton), word : afford, worth : forth (Mallet), word : sword, words : affords, worth :

forth (Harte), return'd:adorn'd, turn:adorn, turn:morn, work:
 fork, worth:forth (5t), worth:north (Boyse), word:lord (P.
 Whitehead), burn:Morn (Johnson), return:scorn, turn:corn,
 worth:forth (Moore), return:morn (4t), return:scorn, word:
 board, word:lord, word:sword (4t), words:affords, words:swords,
 worth:forth (4t), worth:North (W. Whitehead), return:morn, re-
 turn:scorn, words:affords (Collins), return:morn, return:sword,
 urns:adorns, word:afford, word:board, word:sword, words:af-
 fords, words:records, worth:forth (3t), worth:North (Cambridge),
 turn:forlorn, worth:forth (Akenside), curse:remorse, word:board
 (Smollett), word:board, words:chords, worth:forth (J. G. Cooper),
 hurt:sport (2t), return:morn, word:afford, worse:force, worth:
 forth (Wilkie), word:board, worn:adorn (Fawkes), return:adorn,
 word:Lord (Blacklock), word:board, word:lord, word:sword,
 worth:fork, worth:forth (Smart), worth:North (Cunningham),
 burns:adorns, Turk:York, word:record (2t), worm:form, worth:
 north (Mason), word:afford (2t), word:sword, works:forks,
 worth:forth (6t) (Churchill), returning:morning, Turk:pork,
 turn'd:scorn'd, word:afford (2t), word:chord, word:LORD (7t),
 word:sword, worded:recorded, words:chords, words:swords, work:
 fork (2t), worm:form, worms:forms (2t), worm:storm, worms:
 storms, worth:forth (8t), worse:horse (Cowper), word:sword,
 words:affords (Lloyd), burn:scorn, return:adorn (2t), returns:
 adorns (2t), return:morn (2t), turn:forlorn, worms:forms, worth:
 forth (Mickle), burn:scorn, burns:scorns, purse:force, return:
 adorn, return:horn, return:morn, return:scorn (2t), turn'd:
 adorn'd, worm:deform, worm:perform, worm:storm (2t) (Beattie),
 worth:forth (Lovibond), turn:morn, word:board (Logan), word:
 afford, word:board, word:Lord (7t), word:sword (2t), words:af-
 fords, words:lords (3t), words:records, work:cork, worm:storm,

worse : horse, worth : forth (15t) (Crabbe), Turk : fork, Turk : pork, word : afford, word : lord, word : record, word : sword (2t), words : affords, words : chords, work : fork (2t), work : pork, work : stork, worm : form (3t), worm : storm, worse : coarse, worth : forth (4t) (Byron), return : morn, turn : forlorn, turn : thorn, word : Sword, worm : storm, worms : storms (Wordsworth), return : morn, word : Sword, words : accords, words : swords, worm : form, worth : forth (Keats), returning : morning, words : affords (Shelley).

12c : 7c, 11c は PE では [ə:] : [ɔ] となり不完全韻である。しかし, E Mod E 期以降頻繁に見出されている。17 世紀後半のものは伝統的脚韻である可能性が強いが, 16 世紀後半のものはこの種の脚韻が見出されるのはこの時期からであるので伝統的脚韻として処理できない。E Mod E 期の 12c : 7c, 11c は ME/u/ の ME/ɔ/ 異形に依存するものであるが, 17 世紀後半以降も詩人は 12c = [ə:], 7c, 11c = [ɔ:] になっていたにもかかわらず, 12c を 7c, 11c と押韻させている。これはこれ視的効果をねらって -ord- で韻を踏ませたものである。俗にいう視脚韻である。17 世紀の詩人は lord : word, wand : hand, reward : hard といった脚韻をそれらが日常の発音から押韻しなくなっても, 詩の伝統によって許されているという理由で用いている。一方, 詩人は wand : pond, war : store, morning : dawning, lord : awed のような脚韻を, 今日と同様, 当時においても完全韻であったにも関わらず, 綴字が違うという理由で押韻させるのに二の足を踏んでいる。

I] (Dobson, 1968², §§ 90, 92) return (ME *returne*, *remorne* < OF *retorner*), word, work, world, worse, worth に ME/ɔ/ 異形が並存していた正音学者の証拠が存在するので, 12c : 7c は, ME/ɔ/ に依存するものである。

II] (Kökeritz, 1953 p. 254) corpse, form, perform は ME/u/ を持つ二重語が並存していた。又 Dobson (1968², §§ 91, 92) によると, afford, conform, form, perform にも ME/u/ 異形が並存していた証拠が存在する。従って, これらを含む脚韻は ME/u/ 同士の脚韻である。12c : 7c, 11c

は押韻語の何れか一方に相手方の音韻を持つ異形が並存し、何れにしても完全韻である。

12c : 8c

warke : dark (Surrey), mirke : dirke, warke : carke, warke : darke, warke : larke (Spenser-Sc), warke : Arke, worme : armes, werks : Clerks (Spenser-Minor), warke : barke, warke : marke (Spenser2), warke : marke (Browne), word : regard (Marmion), urn : barn (Suckling), work : dark (Butler), worms : charms (Watts), worm : harm (Keats),

12c : 8g

word : ward (Butler), Cur : war (Dryden2), worms : swarms (Blackmore), worms : swarms (Cawthorn).

12c : 8c, 8g は E Mod E 期から見出されるものの、極めて稀であり、卑語・北部・南部・西部方言で散見される現象に過ぎない。work の wark という臨時綴字からわかるように、OED は work に ME/a/ 異形 (4- wark) が並存していたことを示している。cur, urn, word, worm に ME/a/ 異形が並存していた綴り字からの証拠はないが、方言での ME /u/ > 低母音化 > ME/ɔ/ > 平唇化 > ME/a/ に依存するものであろう (Bullokar には must : last, hurt : smart が見られる)。mirk : dirk は murk の ME/i/ 異形に依存するものであり、Scotland 方言では mirk が好まれている。OED は murk に三つの異形 (4-6 mirke, 5 mark, 7- murk) が並存していることを示している。worm, worse 等の OE wyr- は 11 世紀初め頃 [w] の円唇化により wur- となり、Kent を除く他の地域に広がった。尚 Mod E の wor- はこの wur- の書記上の変形である。

12c : 9b

burst : *first, furring : sturring, words : *birds, worst : *first (3t) (Gascoigne), burst : furst (2t), curst : furst (2t), wurst : furst (Turbervile), kurre : sturre (Spenser-Sc), accurst : *first, nurst : *first

(Spenser-Minor), accurst : thirst, burst : thirst, nurst : thirst (Spenser1), words : *birdes, worth : birth (Spenser2), nurst : first (Spenser3), words : burds (Spenser4), burst : first, hurt : hurt, nurst : first (Spenser6), fur : stur, furr : sturre, furre : sturre, nurst : fyrst, nurst : thyrst, spur : sturre (Sidney), worst : *first (Lyly), burst : *first, durst : *first, worth : birth, worst : *first (3t) (Daniel), curling : whirling, curre : *stirre, durst : *first, lurke : irke, nurst : *first, ★ work : irke, worke : *kirke, world : whurld, worst : *first (3t) (Drayton), worst : *first, worth : birth (Marlowe), curst : *first, spur : *stir (Shakespeare), worst : *first (Campion), word : third (Donne), burst : *first, Curre : *stirre, curst : first, Furre : Sir, Spur : *stirre, word : *stirr'd, worst : *first (4t), word : third (Jonson), burst : *first, worst : *first (2t) (Stirling), hurt : hurt (Corbet), burst : *first (P. Fletcher), durst : *first, nurst : *first, worst : *first (2t) (F. Beaumont), words : *birds (Ford), ★ work : dirk (Kynaston), hurt : hurt, curst : *first, curre : sturre (Browne), worst : *first (7t) (Herrick), worst : *first, work : *Kirk, burst : thirst (King), durst : *first, furre : *stirre, words : *birds, worst : *first (2t) (Herbert), worst : *first (Carew), hurt : *dirt, durst : *first, words : *birds (Chalkhill), accurst : thirst, hurl'd : whirl'd, nurst : thirst, world : whirl'd (Benlowe), nursed : *first, uncursed : *first, worst : *first (2t) (Waller), worst : *first (Milton), curst : *first (Suckling), curst : thirst (Cartwright), durst : *first, hurt : *dirt, nurst : *first, spur : Sir, spur : *stir, spur'd : *stirr'd, virging : urging, words : *birds (3t), ★ work : firk, work : *kirk (2t), worst : *first (2t), worth : birth (Butler), † worst : thirst (2t) (Crashaw), burst : thirst, cur : *stir, curst : *first, fur : *stir, nursed : *first (Cleveland), worst : *first (Denham), burst : *first (Lovelace), nurst : *first, worst : *first (2t) (Cowley), nurst : *first (Chamberlain), cur : sir, furs : sirs, spur : *stir, work : *kirk, worst : *first (Brome), nurst : *first (3t), Word : *stir'd (Marvell), durst : *first,

nurst : *first (2t), words : *birds (Hannay), curst : thirst (2t), furrs :
 *stirrs, spurs : *stirs, words : *birds, worst : *first (Vaughan), word :
 third (Cotton), worst : *first (Philips), curst : *first (5t), curst : thirst,
 durst : *first, nurst : *first (2t), Spur : *stir, worth : Birth (2t),
 † worst : thirst (Dryden1), burst : *first, curs'd : *first, Curl : Girl,
 curst : *first (3t), durst : *first, nurs'd : *first (2t), nurst : *first (3t),
 nurst : thirst, word : *Bird, World : whirling (2t), worst : *first
 (Dryden2), curs'd : *first (Dryden3), accurst : *first, curst : *first,
 nurs'd : *first, nurst : *first, Worth : Birth (Dryden4), nurs'd : *first,
 nurst : *first (Sprat), † worst : thirst (Ayres), durst : thirst (Wilmot),
 curst : *first, durst : *first, nurst : *first (Sheffield), words : *birds
 (Carey), curst : thirst, durst : *first, word : *stirr'd, world : whirl'd
 (Otway), curst : *first, worth : birth (Duke), hurl : whirl, world :
 whir'd, world : whirl'd (Blackmore), cur : *stir, curst : *first, hurt :
 flirt, surgeon : virgin, words : *birds, worst : *first (King), return :
 *first, word : *bird (3t), word : *stirr'd, worst : *first (Prior), curst :
 *first, curst : thirst, worst : *first (Granville), burst : *first (8t), Cur :
 Sir, curst : *first (2t), durst : *first, Fur : *stir, nurs'd : *first, Spur :
 *stir, Word : *Bird, Word : *stirr'd, Word : Third (4t), Words : *Birds
 (2t), worst : *first (4t) (Swift), spur : *stir (Congreve), burst : *first,
 burst : thirst, curst : *first, curst : thirst (Yalden), cursts : thirst
 (Addison), cur : sir, curls : whirls (Somerville), curst : *first, nurst :
 *first (Watts), world : whir'd (Hughes), worst : *first (Parnell), curst :
 *first, curst : thirst (Young), word : Lord (2t), word : sword, words :
 swords, worm : form, worth : forth (2t) (Young), curst : *first (2t),
 worst : *first (Fenton), word : *bird, words : *birds (2t) (Gay), burst :
 *first, burst : thirst, Curl : whirl, curst : *first (4t), hurt : *dirt, word :
 third (2t), words : *birds, worst : *first, worth : birth (2t) (Pope),
 word : *bird (Green), curst : thirst (Broome), worth : birth (Savage),
 curst : *first, nurst : *first, curst : thirst (Pitt), burst : *first, word :

*bird (Dodsley), word : third (Jenyns), burst : thirst (Hamilton),
 curst : *first, spurs : sirs (Brooke), curst : *first, worst : *first (Harte),
 worth : birth (3t) (Boyse), world : whirl'd, worth : mirth (Johnson),
 word : *bird, word : third, words : *birds (Moore), hurt : *dirt (Jago),
 worth : birth (W. Whitehead), worst : *first, worth : birth, worth :
 mirth (Cambridge), word : *bird (Cawthorn), worth : mirth (Aken-
 side), scourge : dirge (Smollett), word : *bird (J G. Cooper), word :
 *bird (2t) (Wilkie), worth : birth (Fawkes), curst : thirst (J. Warton),
 curst : thirst, sturgeon : virgin, word : *stirr'd, words : *birds, worm :
 infirm, worth : mirth (Smart), cur : *stir, word : *bird, worst : *first
 (Cunningham), nurs'd : *first, purl : girl, worth : birth (T. Warton),
 purses : verses, return : learn, urn : discern (T. Warton), absurd :
 third, worst : *first (Mason), burst : thirst, curl : twirl, curs'd : *first
 (2t), nurs'd : *first, word : third, worm : firm (2t), worst : *first (2t),
 worth : birth (4t), worth : mirth (Churchill), burst : *first, nurs'd :
 *first, nurst : *first, occurs : sirs, spur : *stir, word : *bird, worth : birth
 (3t), worth : *first (2t) (Cowper), curst : *first, hurt : *dirt (5t), spur :
 *stir, unheart : *dirt, world : whil'd (2t), word : *bird, worth : birth
 (6t) (Lloyd), curls : whirls, worth : birth, woth : mirth (Beattie),
 worth : earth (Lovibond), burst : *first, burst : thirst, bursts : thirsts,
 curl'd : whirl'd, hurl'd : whirl'd, world : whirl'd (Jones), world : whirl'd
 (Logan), curls : whirls (3t) (Chatterton), cur : *stir, nurst : *first,
 word : *stirr'd, words : *birds, worm : firm, worth : birth (Crabbe),
 burst : *first, burst : thirst, curst : *first, durst : *first, nursed : *first,
 nurst : *first, surge : dirge, words : *birds, worst : *first (5t), Worth :
 mirth, worth : birth (7t) (Byron), curl : Girl (Wordsworth), burst :
 *first (2t), burst : thirst (2t), bursting : thirsting, curl : girl, curl :
 whirl, curls : girls, furze : *stirs, nurst : *first, hurt : flirt, turtles :
 myrtles, worth : birth, worth : Mirth (Keats), burst : thirst, surge :
 dirge (2t) (Shelley).

12c:9b は PE では [ə:] に依存する完全韻であり、E Mod E 期以降見出されているものの、比較的に見出されるようになるのは 1600 以降である。しかし、両者がどの時期に融合したかに関しては音韻論学者の間で意見の一致を見ていない。臨時綴字、正音学者、脚韻の証拠は大きく食い違っている。

I] Kökeritz (1953, p. 253) によると、Shakespeare にも臨時綴字: burd (bird), burbolt (birbolt), duty (dirty), hyrricane (hurricane), 及び脚韻: accurst: first, worst: first, incur: sturre (stir), spur: sturre が見出されるものの、脚韻の例は first, stir の ME/u/ を持つ二重語に依存するものであることが報告されている。Dobson (1968², § 213 Note4) によると、bird, dirt, kirk に ME/u/ 異形が並存していたので、12c:9b の内、これらの語との脚韻は ME/u/r に依存するものであるかも知れない (*を付す)。

II] (Dobson, 1968², § 213 Note3) worst には ME/ε/ 異形 (†を付す) が並存していたので、worst: 9b は 10b: 9b, work には ME/i/r 異形 (★を付す) が並存していたので、work: 9b は ME/i/r 同士の脚韻であるかも知れない。上記の語以外の 12c:9b は ME/u/r と ME/ir/ の [ə:] での融合を示す脚韻であり、脚韻の証拠からは E Mod E では ME/u/r と ME/i/r は融合していたことになる。

図示すると、

ME/u/r = [ur] > [ʌr] > [ər] > [ə:]

ME/i/r = [ir] > [εr] > [ər] > [ə:] となる。

ME/ui (ME/oi/): ME/i:/ は、筆者の調査によると、E Mod E 期から見出されるものの比較的に見出されるようになるのは 1600 以降である。この間接証拠も ME/u/ > [ʌ] が E Mod E 期に起こっていたことの傍証となるろう。

12c: 10b

worth: earth, words: heards (Spenser-Minor), turne: learne (Spenser6), burre: hyr, furr: hir, furre: hyr (Sidney), worth: Earth

(Daniel), churn : quern (Shakespeare), Charls : earls (Drummond), worth : earth (Carew), *churches : perches, *church : search, purse : verse, purveys : service, turn'd : earn'd, worse : reverse, worse : verse, worth : Earth, worthies : Earth-is (Butler), worth : Earth (2t) (Crashaw), curls : pearls (Hannay), Curls : Pearls (Vaughan), adjourn : discern, adjourn : learn (Dryden2), Churl : Earl (Dryden4), fur : her (King), Curtain : certain (Swift), return : earn (Somerville), *werke : clerke (Fenton), turn'd : learn'd, Worth : earth (Pope), worth : Earth (2t) (Savage), turn : learn (Dodsley), curs'd : revers'd, worth : earth (Jenyns), worth : Earth (Boyse), worth : earth (P. Whitehead), turn : discern (Moore), purses : verses, return : discern (Shenstone), purse : verse (Jago), turn : learn (Collins), spurn : earn (Akenside), word : heard (J. G. Cooper), turn'd : learn'd (Smart), worse : rehearse (Cunningham), hurt : pervert, return : discern, return : stern, scourge : verge, turn : discern (2t), turn'd : learn'd, word : heard (22t), word : unheard, worm : term, worth : dearth, worth : earth (7t) (Churchill), *church : search, curb : nerve, curse : perverse, disturb : herb, nurse : verse, occur'd : heard, purse : rehearse, return : earn, return : learn, return'd : discern'd, turn : discern, turn : learn, turn'd-it : discern'd-it, worse : verse, worth : earth (2t) (Cowper), curse : perverse (Falconer), burrs : hers, curse : verse (4t), curtain : certain, purse : verse, return : learn, spur : her, spur : prefer, turning : learning, word : err'd, word : heard (4t), word : herd, worse : rehearse, worse : verse (4t), worth : Earth (3t) (Lloyd), curl : pearl, curls : pearls (2t), curse : verse, return : learn, Word : confer'd, Word : heard (2t) (Jones), curves : swerves, return : discern'd, return : learn, turn : discern, turn'd : discern'd, turns : discerns (Crabbe), burn : stern, *church : search, curse : amerce, curtain : certain, curse : rehearse, curse : reverse, curse : verse (3t), curses : rehearses, curtain : desert-in, demur : her, nurse : verse, return : stern, return'd : earn'd, spurr'd : heard, urn : stern,

word : heard (6t), worse : verse (5t), worse-on : person, worse-on :
verse-on, worth : dearth, worth : earth (7t) (Byron), curse : perverse,
furr'd : heard, nurse : perverse, returned : earned, word : heard
(Wordsworth), burly : early, burn : stern, curl : pearl (2t), curls :
pearls, curse : vere, curve : swerve, nurse : hearse, nurse : verse,
return'd : yearn'd, turn'd : discern'd (2t), word : heard (3t), worm :
germ, wort : pert, worth : death, worth : earth (Keats), burst : dis-
persed, word : heard (Shelley).

12c : 10b は PE では [ə:] となり、完全韻であり、12c : 10b は E Mod E
期以降見出されている。しかし、両者の融合時期が、12c : 9b 同様、音韻
史上問題となっている。臨時綴字、正音学者、脚韻の証拠は大きく食い違っ
ている。Kökeritz (1953, p. 252) によると、ME/ε/r = [ə:] の最初の正
音学者の証拠は Daines (1640) に見出されている。しかし、ME/u/r =
ME/ε/r = [ə:] の臨時綴字の証拠は 1540 年の Marchyn の日記 (surmon
(sermon), Burgany (Bergavenny), Sercotte (surcoat)) に見られるよ
うに、文法家の証拠よりも早い時期に見出されていること、及び Shake-
speare にも surge (serge), serge (surge), Burgany (Bergavenny),
pursent (present) の臨時綴字が見出されている所から、E Mod E 期に
は ME/u/r, ME/ε/r は [ə:] になっていたと考えている。Dobson
(1968², § 212 Note2, 3) によると、ME/u/r と ME/ε/r の同一視を示す
綴字の証拠は方言では 16 世紀に、ロンドン英語では 1525 年に見出される
が、その証拠は不十分である。脚韻の証拠からは、nourish : cherish :
flourish (Sidney) が ME/u/r と ME/ε/r の融合の証拠となっている。
OED によると、church には ME/ε/r 異形 (chirche, cherche, church)
が、(Dobson, 1968², § 212 Note3) work には ME/ε/ 異形が並存してい
たので、12c : 10b の内、church, work との脚韻は ME/ε/r に依存するも
であるかも知れない (*を付す)。上記以外の 12c : 10b は ME/u/r と ME
/ε/r の [ə:] での融合を示す脚韻であり、脚韻の証拠からは E Mod E で
は ME/u/r と ME/ε/r は融合していたことになる。図示すると、

$$\text{ME/u/r} = [\text{ur}] > [\text{ʌr}] > [\text{ər}] > [\text{ə:}]$$

ME/ε/r=[εr]>[ər]>[e:] となる。

その他

12a : 1e

discoure : bowre, discoure : powre (2t), discoure : stoure, discover : Towre (Spenser3).

Spenser に固有のものであり, discover の ME discovere<OF descouvrir に依存するものである。

12a : 2a

sich : lich (Spenser3).

Spenser に固有のものであり, Such の ME/i/ 異形と like の ME/i/ 異形に依存するものである。

12a : 6a

us : disease (Daniel).

Daniel に固有のものであり, (Dobson, 1968², § 96) us の ME/ε/ 異形と disease の ME/ε:/>ME/ε/ に依存するものである。

12a : 6c

discover : endeuer, louer : endeuer (Spenser5), oven : heaven (Corbet).

(Dobson, 1968², § 83) 方言での ME/u/ の ME/ε/ 異形に依存するものである。

12a : 7c

love : shore : store : wore (Thompson).

Thompson に固有のものであり, love の意味的異形 amour (OF amor) に依存するものである。

12a : 7e

mud : abroad (Diaper).

Diaper に固有のものであり, (Dobson, 1968², § 97) 方言での ME/u/> (低母音化による) ME/ɔ/ : abroad の方言での [ɔ:]>[ɔ] に依存する完全韻である。Wright (1905, Index, p. 355) によると, broad は

Northumberland, Cumberland, Stafford で [o] と発音されていることが記録されている。abroad の方言での ME/ɔ:/ > [o:] > [u:] > [u] でも韻は成立する。

12b : 1a

wou'd : vow'd (Butler).

Butler に固有のものであり, [u] : [u:] > [u] に依存するものである。

12b : 1f

Butcher : touch-her (Swift).

Swift に固有のものであり, [u] : [u:] > [u] に依存するものである。

12a : 13c

rung : again (Wordsworth).

rung の方言での ME/e/ 異形と (Dobson, 1968², § 26) again の ME/e/ 異形に依存するものであろう。

12c : 5a

brast : hast, brast : plast (Spenser⁵).

Spenser に固有のもので, burst の音位転換異形 ME/a/ と 5a の ME/a/ 異形に依存するものである。

12c : 1c

worth : youth (Yalden).

Yalden に固有のもので, worth の wourth 異形 (6) に依存するものであろう。

12c : 1e

worse : powers (Butler).

Butler に固有のもので, power の ME/u:/ > [u] に依存するものである。

12c : 4c

worse : amours (Butler).

Butler に固有のもので, worse の ME/ɔ/ 異形と amour の ME/ɔ/ 異形 (6-7 amor < L. amor) に依存するものである。

12c : 4e

farther : othre (Wyatt).

Wyatt に固有のもので, farther の本来の ME/u/ と (Dobson, 1968², § 18) other の ME/u/ に依存する脚韻である。

12c : 7a

world : enrold (Spenser-Minor), world : extold (Spenser1), world : hold, world : introld, world : told (Spenser2), brunt : wount (Spenser6).

Spenser に固有のものであり, (Dobson, 1968², § 90) world の ME/ɔ/ 異形, brunt の方言での ME/ɔ/ 異形 (5-6 bront) に依存するものである。

12c : 8b

brast : ouercast, outbrast : ouercast (Spenser-Minor), brast : aghast (2t), vrast : blast, brast : cast, brast : fast (2t), brast : past (Spenser1), brast : mast, brast : past (Spenser3), brast : fast (Spenser4), brast : agast, brast : cast (2t), brast : fast (3t), brast : past (2t) (Spenser5), brast : aghast (2t), brast : blast, brast : cast, brast : fast (2t), brast : last (Spenser6).

Spenser に固有のものであり burst の ME/a/ を持つ音位転換形 brast に依存するものである。Shakespeare では全て burst であるのに対し, Spenser は brust を用いている (OED)。

12c : 9a

brust : lust (Spenser5).

Spenser に固有のものであり, list の ME/u/ 異形 (5 lust) に依存するものである。

12c : 10a

brent : extent, brent : sent (Spenser-Minor), brent : torment (Spenser1), brent : hent, brent : torment (Spenser2), brent : augment, bren : den, bren men, brent : relent, brent : rent, brent : repent (Spenser3), brenne : men, brenne : penne, brent : rent (Spenser4).

Spenser に固有のものであり, burnt の音位転換形を持つ ME/e/ 異形 (4-7 brent) に依存する脚韻である。

12c : 15a

worth : growth (Crashaw).

Crashaw に固有のものであり, worth の ME/ɔ/ 異形 (Dobson, 1968², § 90) が [θ] の前で長母音化した ME/ɔ:/ 異形と 15a との脚韻である。

12c : 18a

worth : truth (Yalden).

Yalden に固有のものであり, worth の語中の [r] が後続する子音に吸収され長音化された [u:] に依存するものである。

3. 結 論

我々は脚韻を可能な限り類韻ではなく, 完全韻であるという立場で処理している。一見不完全であると思われるものも, 詳細に検討すれば, その脚韻を完全韻にする異形の存在 (ME/u/ の ME/ɔ/, ME/a/, ME/ɛ/, ME/i/, ME/u:/, ME/o:/ 異形) が明らかになってきた。ME/u/ を取り巻く脚韻の実状は 2) で検討してきた通りである。それらの証拠を踏まえると, ME/u/ を含む脚韻は次の音韻に依存しているものと考えるのが最も蓋然性が高いと思われる。

- 1) 12a : 1a (bud : aloud, boudget : avouch) は ME/u:/ の ME/u/ 異形か, ME/u/ の ME/u:/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降特に北部・西部出身の詩人に散見される程度である。
- 2) 12a : 1b (come : tomb, up : stoop) は [u:] 又は 1b の [u] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 3) 12a : 1c (shunn'd : wound) は 1c の [u] に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。
- 4) 12a : 1f (such : touch) は ME/u/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 5) 12a : 4a (love : move, dull : fool) は 12a の ME/o:/ = [u:] 又は 4a

の [u] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。

- 6) 12a : 4d (bud : good), 12a : 4e (run : one) は ME/u/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 7) 12a : 5a (strake : awake) は 12a の ME/a:/ 異形に依存するものである。この脚韻は稀である。
- 8) 12a : 7a (come : Rome, run : moan) は ME/ɔ:/ の [u:] 又は [u] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 9) 12a : 7b (come : womb) は [u:] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 10) 12a : 7d (Sun : gone) は ME/ɔ/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 11) 12a : 8a (begun : man, son : began), 12a : 8e (hunt : want) は [e] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 12) 12a : 9a (kit : wytt, such : rich), 12a : 10a (discover : euer, flesh : dust) は [i] 又は [e] に依存する完全韻であり, E Mod E 期以降, 主として南部, 西部, 北部出身の詩人に限って散見される程度である。
- 13) 12a : 9b (must : first, trust : first) は 9b の ME/u/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 14) 12a : 11a (among : long, stung : long) は 12a の ME/ɔ/ 異形か, 11a の ME/u/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 15) 12a : 12b (cut : put) は ME/u/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降見出されている。
- 16) 12a : 12c (dust : burst, trust : worst) は 12c の ME/u/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。

- 17) 12a : 14a (begun : drawn, Sun : drawn) は [ɔ] に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。
- 18) 12a : 15a (run : known, son : known) は 15a の ME/ɔu/ > ME/u:/ > ME/u/ に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 19) 12a : 18a (judge : refuse, come : presume) は 18a の [iu] > [ju:] > [u:] > [u] に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 20) 12b : 4a (woman : broom-man, full : Fool) は [u] : [o:] > [u:] > [u] に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。
- 21) 12b : 4d (would : good, full : wool), 12b : 4e (wou'd : Flood, would : blood) は [u] : [o:] > [u:] > [u] に依存するものである。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 22) 12b : 7a (would : cold), 12b : 15a (would : mould) は would の ME/u:/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 23) 12b : 11a (woman : common, bosom : blossom) は ME/u/ の ME/ɔ/ 異形か, ME/ɔ/ の ME/u/ 異形に依存する脚韻のどちらかであり, 完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降散見される程度である。
- 24) 12c : 1d (nourse : course, return : mourn) は 12c の ME/ɔ 異形か, 1d の ME/u/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 25) 12c : 3b (curse : pierce) は 3b の ME/ε/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。
- 26) 12c : 7c (return : born), 12c : 11c (word : afford) は 12c の ME/ɔ/ 異形か, 7c, 11c の ME/u/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。
- 27) 12c : 8c (warke : dark), 12c : 8g (worms : swarms) は 12c の ME/a/ 異形に依存する完全韻である。この脚韻は稀である。

28) 12c:9b (worst: first, work: irk) は ME/u/r と ME/i/r の融合を示す脚韻である。この脚韻は E Mod E 期以降豊富に見出されている。

29) 12c:10b (church: search, work: clerk) は ME/u/r と ME/ε/r の融合を示す脚韻である。この脚韻は E Mod E 期以降見出されている。

参 考 書 目

Araki, K

- 1965 英文法—理論と実践, 研究社。
 1975 「ME/ε:/ の発達過程について」『名古屋大学文学部研究論集』55。
 1977 「近代標準英語母音組織の発達 (1)」『名古屋大学文学部研究論集』70。
 1978 「近代標準英語母音組織の発達 (2)」『名古屋大学文学部研究論集』78。

Araki, K., H. Heguri, S. Suzuki, Y. Kanzawa, and M. Takenaka.

- 1993 a 「英詩脚韻の研究 (1)」『京都外国語大学研究論叢』40。
 1993 b 「英詩脚韻の研究 (2)」『京都外国語大学研究論叢』41。
 1994 a 「英詩脚韻の研究 (3)」『京都外国語大学研究論叢』42。

Araki, K., H. Heguri, Y. Kanzawa, and M. Takenaka.

- 1994 b 「英詩脚韻の研究 (4)」『京都外国語大学研究論叢』43。
 1995 a 「英詩脚韻の研究 (5)」『京都外国語大学研究論叢』44。
 1995 b 「英詩脚韻の研究 (6)」『京都外国語大学研究論叢』45。

Araki, K., K. Morishima, H. Heguri, Y. Kanzawa, and M. Takenaka.

- 1996 a 「英詩脚韻の研究 (7)」『京都外国語大学研究論叢』46。
 1996 b 「英詩脚韻の研究 (8)」『九州産業大学国際文化学部紀要』7。

Araki, K., M. Ukaji.

- 1984 『英語史ⅢA』英語学大系 10。東京：大修館。

Araki, K. and Y. Nakao.

- 1980 『シェイクスピアの発音と文法』東京：荒竹出版。

Cercignani, C.

- 1981 *Shakespeares Works and Elizabethan Pronunciation*. Oxford: Clarendon.

Davis, C.

- 1934 *English pronunciation: from the fifteenth to the eighteenth*

century. (rpt.) 1970. Connecticut: Greenwood.

Dobson, E.

1968 English Pronunciation 1500-1700. 2 vols. London: Oxford Univ. Press.

Heguri, H.

1976 「エリザベス朝の ME a:, ai, ε: の融合について」『岐阜女子大学紀要』第5号。

1977 a 「Caroline Period の ME a:, ME ai, ME e: の融合について」『岐阜女子大学紀要』第6号。

1977 b 「ME a: の発達過程について」『Perspective』vol. 5。

1978 「史的音韻論から見た Dryden と Pope の発音について」『岐阜女子大学紀要』第7号。

1980 「ME i: の発達過程について」『中京大学教養論叢』第21巻第4号。

1981 「MEu: の発達過程について」『中京大学教養論叢』第22巻第4号。

1985 「初期近代英語の ME/ay/ の音価について」『中京大学教養論叢』第25巻第4号。

1986 a 「初期近代英語の ME/a:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第26巻第4号。

1986 b 「初期近代英語の ME/ε:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第27巻第2号。

1986 c 「後期近代英語の ME/ay/ の音価について」『中京大学教養論叢』第27巻第3号。

1987 a 「後期近代英語の ME/a:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第27巻第4号。

1987 b 「後期近代英語の ME/ε:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第28巻第1号。

1990 a 「初期近代英語の ME/ɔ:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第31巻第1号。

1990 b 「後期近代英語の ME/ɔ:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第31巻第2号。

1991 a 「初期近代英語の ME/ɔu/ の音価について」『中京大学教養論叢』第31巻第4号。

1991 b 「後期近代英語の ME/ɔu/ の音価について」『中京大学教養論叢』第32巻第2号。

1991 c 「初期近代英語の ME/au/ の音価について」『中京大学教養論叢』第32巻第3号。

- 1991 d 「後期近代英語の ME/au/ の音価について」『中京大学教養論叢』第 32 卷第 4 号。
- 1992 「初期近代英語の ME/e:/ の音価について」『中京大学教養論叢』第 33 卷第 4 号。
- 1995 「Samuel Johnson の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 36 卷第 3 号。
- 1996 「H. Drummond の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 37 卷第 4 号。
- 1997 a 「Faery Queene, Book I の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 38 卷第 3 号。
- 1997 b 「Faery Queene, Book II の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 38 卷第 4 号。
- 1997 c 「The Shepherds Calender の脚韻」『中京大学教養論集』第 38 卷第 3 号。
- 1998 a 「Faery Queene, Book III の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 1 号。
- 1998 b 「E. Benlowes の脚韻」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 1 号。
- 1998 c 「Faery Queene, Book IV の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 2 号。
- 1998 d 「Sir John Denham の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 2 号。
- 1998 e 「Faery Queene, Book V の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 3 号。
- 1998 f 「K. Philips の脚韻」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 3 号。
- 1998 g 「Faerie Queene, Book VI の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 4 号。
- 1998 h 「Flatman の脚韻」『中京大学教養論叢』第 39 卷第 4 号。
- 1999 a 「W. Wordsworth の脚韻」『中京大学教養論叢』第 40 卷第 1 号。
- 1999 b 「R. Lovelace の脚韻」『中京大学教養論叢』第 40 卷第 2 号。
- 1999 c 「Sir, Thomas Wyatt の脚韻」『中京大学教養論叢』第 40 卷第 3 号。
- 1999 d 「R. Crashaw の脚韻」『中京大学教養論叢』第 40 卷第 4 号。
- 1999 e 「Spenser's Minor Poems の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 2 号
- 2000 a 「T. Campion (1567-1620) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 1 号。
- 2000 b 「Dryden (1631-1700) の脚韻について (その I)」『中京大学教養

- 論叢』第 41 卷第 2 号。
- 2000 c 「Sir John Beaumont の脚韻」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 2 号。
- 2000 d 「Sir John Davies (1569-1626) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 3 号。
- 2000 e 「Giles Fletcher (1588-1623) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 3 号。
- 2000 f 「Dryden (1631-1700) の脚韻について (そのⅡ)」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 4 号。
- 2000 g 「George Herbert (1593-1635) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 41 卷第 4 号。
- 2001 a 「Dryden (1631-1700) の脚韻について (そのⅢ)」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 1 号。
- 2001 b 「Francis Beaumont (1584-1616) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 1 号。
- 2001 c 「Dryden (1631-1700) の脚韻について (そのⅣ)」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 1 号。
- 2001 d 「Milton (1608-74) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 2 号。
- 2001 e 「A. Marvell (1621-78) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 3 号。
- 2001 f 「Earl of Surrey (?1517-47) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 3 号。
- 2001 g 「John Donne (1572-1632) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 4 号。
- 2001 h 「Richard Corbet (1582-1635) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 42 卷第 4 号。
- 2002 a 「Michael Drayton (1563-1631) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 43 卷第 1 号。
- 2002 b 「George Turbervile (?1540-?1610) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 43 卷第 1 号。
- 2002 c 「Alexander Pope (1688-1744) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 43 卷第 2 号。
- 2002 d 「Sir John Suckling (1609-41) 脚韻」『中京大学教養論叢』第 43 卷第 2 号。
- 2002 e 「G. Gascoigne (c.1535-or 42-77) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第 43 卷第 3 号。
- 2002 f 「Sir Edward Sherburne (1618-1702) の脚韻」『中京大学教養論

- 叢』第43巻第3号。
- 2002 g 「Henry Vaughan (1622-95) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第43巻第4号。
- 2002 h 「Sir William Davenant (1608-68) の脚韻」『中京大学教養論叢』第43巻第4号。
- 2003 a 「Sir Philip Sidney (1554-86) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第44巻第1号。
- 2003 b 「William Habington (1605-54) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第1号。
- 2003 c 「Earl of Stirling (?1567-1640) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第44巻第2号。
- 2003 d 「Phinias Fletcher (1582-1650) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第2号。
- 2003 e 「John Ford (1588-1639) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第3号。
- 2003 f 「Francis Kynaston (1587-1642) の脚韻」『中京大学教養論叢』第44巻第4号。
- 2003 g 「Samuel Daniel (?1563-1619) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第44巻第4号。
- 2004 a 「William Warmer (?1561-1609) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第45巻第1号。
- 2004 b 「John Lyly (?1554-1606) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第1号。
- 2004 c 「Robert Herrick (1591-1674) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第45巻第2号。
- 2004 d 「Sir Walter Raleigh (1552-1618) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第2号。
- 2004 e 「Charles Cotton (1630-87) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第45巻第3号。
- 2004 f 「Henry King (1592-1669) の脚韻」『中京大学教養論叢』第45巻第3号。
- 2004 g 「William Diaper (1685-1717) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第45巻第4号。
- 2004 h 「Patrick Hannay (died 1629?) の脚韻について」『中京大学教養論叢』第45巻第4号。
- 2005 a 「John Chalkhill (fl. 1600) の脚韻」『中京大学教養論叢』第46巻

第 1 号。

2005 b 「William Chamberlayne (1619-89) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 46 卷第 2 号。

2005 c 「William Congreve (1670-1729) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 46 卷第 4 号。

2006 a 「William Browne (?1591-?1643) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 47 卷第 1 号。

2006 b 「Edmond Waller (1606-87) の脚韻」『中京大学教養論叢』第 47 卷第 3 号。

Jespersen, O.

1909 Modern English Grammar. Part I. Copenhagen: Munksgaard.

Kökeritz, H.

1953 Shakespeares Pronunciation. New Haven & London: Yale Univ. Press.

Luick, K.

1914-40 Historische Grammatik der Englischen Sprache. 2 vols. (rpt.) 1964. Oxford: Blackwell.

Nakao, T.

1985 『音韻史』英語学大系 11, 東京: 大修館

Prins, A. A.

1972 A History of English Phonemes. Leiden Univ. Press.

Lass, R.

1999 The Cambridge History Of The English Language Vol. III. Cambridge: Univ. Press.

Samuels, M. L.

1972 Linguistic evolution: with special reference to English. Cambridge Studies in Linguistics 5. Cambridge: Univ. Press.

Wells, J. C.

1982 Accents of English. 3 vols. Cambridge: Univ. Press.

Wolfe, P. M.

1972 Linguistic Change and the Great Vowel Shift in English. California: Univ. of California Press.

Wright, J.

1905 The English Dialect Grammar. Oxford: Clarendon.

Wyld, H. C.

1923 Studies in English Rhymes from Surrey to Pope. (rpt.) 1965 N.

Y.: Russell & Russel.

1936³ A History of Modern Colloquial English. Oxford: Blackwell.

Zachrisson, R. E.

1913 Pronunciation of English Vowels 1400-1700. (rpt.) 1971. N. Y.:
AMS.

1927 The English Pronunciation at Shakespeares Time as Taught by
William Bullokar. (rpt.) 1970. N. Y.: AMS.

(受理日 平成 18 年 1 月 17 日)